

2 0 0 1

授業概要

【シラバス】

福祉援助学科

白梅学園短期大学

SHERAUME GAKUEN COLLEGE

目次 (福祉援助学科)

専門教育科目 (1年)	1
社会福祉概論 I	3
社会福祉概論 II	4
老人福祉論 I	5
老人福祉論 II	6
リハビリテーション論	7
レクリエーション活動援助法	8
老人の心理	9
障害者の心理	10
家政学概論 I	11
家政学概論 II	12
医学一般 I	13
医学一般 II	14
精神保健	15
介護概論 I	16
介護概論 II	17
介護技術 I	18
介護技術 II	19
介護技術 III	20
形態別介護技術 I (老人介護)	21
形態別介護技術 II (内部障害・肢体不自由・知的障害・精神障害)	22
形態別介護技術 IV (聴覚障害)	23
介護実習 I	24
介護実習 II	25
実習指導 I	26
福祉研究入門	27
家族福祉論	28
カウンセリング	29
発達心理学	30
遊びの造形	31
シニアの音楽とダンス	32・33
教養教育科目 (2年)	35
文学・フィクションと人間	37
王朝文学の世界	38
話し言葉の文芸	39
西洋文学	40
近代日本の歴史	41
西洋史概説	42
東洋美術	43
演劇論	44
現代社会論	45
現代家族論	46
日本国憲法	47
市民生活と法	48

政治学入門	49
生活の経済学	50
心理学入門	51
マスコミュニケーション概論	52
現代社会と女性	53
自然科学史	54
生命の科学	55
生物と環境	56
生活の科学	57
健康の生理学	58
宇宙と地球	59
総合科目 人間	60~62
情報処理入門	63
総合英語 I-1、2	64・65
海外語学研修	66
スポーツA (テニス)	67
スポーツA (ダンス)	68
スポーツA (バレーボール)	69・70
スポーツA (バドミントン)	71
スポーツA (トランポリン)	72
健康科学	73
スポーツ科学	74
専門教育科目 (2年)	75
障害児・者福祉論	77
社会福祉援助技術論	78
社会福祉援助技術演習	79
家政学実習 I (栄養・調理)	80
家政学実習 II (被服・住居)	81・82
医学一般III	83
形態別介護技術 II (内部障害・肢体不自由・在宅介護)	84
形態別介護技術 III (視覚障害)	85
介護実習 III	86
実習指導 II	87
実習指導 III	88
卒業研究ゼミナール	89~94
地域福祉論	95
ホスピスケア概論	96
視聴覚メディア活用法	97

專門教育科目（1年）

【授業科目】 社会福祉概論Ⅰ	【担当者】 鍾 家新																														
【開講期】 1年 前期																															
<p>【授業目標】</p> <p>本講義は、つぎの諸項目に関する理解を深めることを目標とする。これらは、①現代社会における社会福祉の意義・理念、社会福祉の基本的な考え方、②社会福祉の形成・発展過程及び社会福祉の推進要因、③社会福祉の法体系・制度及び財政全体の要旨、運営組織、福祉の措置、運営全体の概要、④社会福祉の基礎とする社会保障制度（所得、医療、住宅、雇用及び公的扶助など）の概要、⑤介護保険の内容と課題である。本講義の受講によって、学生たちは、福祉援助者として社会福祉に関する必要な知識を身につける。</p>																															
<p>【テキスト】</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編『介護福祉士養成講座1 社会福祉概論』中央法規、2001年。</p>																															
<p>【参考書】</p> <p>講義の中で必要に応じて参考文献を紹介する。</p>																															
授 業 計 画																															
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">1. 私たちの暮らしと社会福祉</td> <td style="text-align: right;">(第1回)</td> </tr> <tr> <td>2. 社会福祉とは何か。</td> <td style="text-align: right;">(第2回)</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉の概念のとらえ方</td> <td style="text-align: right;">(第3回)</td> </tr> <tr> <td>4. イギリスの社会福祉</td> <td style="text-align: right;">(第4回)</td> </tr> <tr> <td>5. アメリカの社会福祉</td> <td style="text-align: right;">(第5回)</td> </tr> <tr> <td>6. スウェーデンの社会福祉</td> <td style="text-align: right;">(第6回)</td> </tr> <tr> <td>7. 社会事業成立以前</td> <td style="text-align: right;">(第7回)</td> </tr> <tr> <td>8. 社会事業成立期</td> <td style="text-align: right;">(第8回)</td> </tr> <tr> <td>9. 戦後社会福祉の展開</td> <td style="text-align: right;">(第9回)</td> </tr> <tr> <td>10. 社会福祉の法制</td> <td style="text-align: right;">(第10回)</td> </tr> <tr> <td>11. 所得保障制度</td> <td style="text-align: right;">(第11回)</td> </tr> <tr> <td>12. 医療保障制度</td> <td style="text-align: right;">(第12回)</td> </tr> <tr> <td>13. 介護保険の内容と課題</td> <td style="text-align: right;">(第13回)</td> </tr> <tr> <td>14. 社会福祉行政</td> <td style="text-align: right;">(第14回)</td> </tr> <tr> <td>15. 社会福祉の財政</td> <td style="text-align: right;">(第15回)</td> </tr> </table>		1. 私たちの暮らしと社会福祉	(第1回)	2. 社会福祉とは何か。	(第2回)	3. 社会福祉の概念のとらえ方	(第3回)	4. イギリスの社会福祉	(第4回)	5. アメリカの社会福祉	(第5回)	6. スウェーデンの社会福祉	(第6回)	7. 社会事業成立以前	(第7回)	8. 社会事業成立期	(第8回)	9. 戦後社会福祉の展開	(第9回)	10. 社会福祉の法制	(第10回)	11. 所得保障制度	(第11回)	12. 医療保障制度	(第12回)	13. 介護保険の内容と課題	(第13回)	14. 社会福祉行政	(第14回)	15. 社会福祉の財政	(第15回)
1. 私たちの暮らしと社会福祉	(第1回)																														
2. 社会福祉とは何か。	(第2回)																														
3. 社会福祉の概念のとらえ方	(第3回)																														
4. イギリスの社会福祉	(第4回)																														
5. アメリカの社会福祉	(第5回)																														
6. スウェーデンの社会福祉	(第6回)																														
7. 社会事業成立以前	(第7回)																														
8. 社会事業成立期	(第8回)																														
9. 戦後社会福祉の展開	(第9回)																														
10. 社会福祉の法制	(第10回)																														
11. 所得保障制度	(第11回)																														
12. 医療保障制度	(第12回)																														
13. 介護保険の内容と課題	(第13回)																														
14. 社会福祉行政	(第14回)																														
15. 社会福祉の財政	(第15回)																														
<p>【評価方法】</p> <p>試験と出席状況。</p>																															

<p>【授業科目】 社会福祉概論II</p>	<p>【担当者】 鍾 家新</p>																														
<p>【開講期】 1年 後期</p>																															
<p>【授業目標】</p> <p>本講義は、つぎの諸項目に関する理解を深めることを目標とする。これらは、①社会福祉の遂行と福祉専門職の必要性、②公務専門職員および民間専門職員による福祉活動や福祉社会確立の必要性、③社会福祉援助技術の概要および動向、④社会福祉の専門職の概要と福祉資格法の必要性および倫理的諸問題、⑤福祉ニーズとその変容、⑥在宅・地域福祉の現状と課題、⑦社会福祉をめぐる国内外の近年の動向、である。本講義の受講によって、学生たちは、福祉援助者として社会福祉に関する必要な知識と能力を得ることができる。</p>																															
<p>【テキスト】</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編『介護福祉士養成講座1 社会福祉概論』中央法規、2001年。</p>																															
<p>【参考書】</p> <p>講義の中で必要に応じて参考文献を紹介する。</p>																															
<p style="text-align: center;">授 業 計 画</p>																															
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1. 社会福祉の主体</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">(第1回)</td> </tr> <tr> <td>2. 社会福祉ニーズの分類</td> <td style="text-align: right;">(第2回)</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉ニーズの把握</td> <td style="text-align: right;">(第3回)</td> </tr> <tr> <td>4. 社会福祉援助の意味</td> <td style="text-align: right;">(第4回)</td> </tr> <tr> <td>5. 社会福祉の援助形態</td> <td style="text-align: right;">(第5回)</td> </tr> <tr> <td>6. 社会福祉の援助方法</td> <td style="text-align: right;">(第6回)</td> </tr> <tr> <td>7. 社会福祉の専門性と業務内容</td> <td style="text-align: right;">(第7回)</td> </tr> <tr> <td>8. 社会福祉専門職の倫理</td> <td style="text-align: right;">(第8回)</td> </tr> <tr> <td>9. 介護ニーズの社会的増大</td> <td style="text-align: right;">(第9回)</td> </tr> <tr> <td>10. 福祉士法の社会的意義</td> <td style="text-align: right;">(第10回)</td> </tr> <tr> <td>11. 福祉士法の全体的内容</td> <td style="text-align: right;">(第11回)</td> </tr> <tr> <td>12. 地域福祉の現状と課題</td> <td style="text-align: right;">(第12回)</td> </tr> <tr> <td>13. 日本の社会保障をめぐる最近の動向</td> <td style="text-align: right;">(第13回)</td> </tr> <tr> <td>14. 21世紀の社会福祉の傾向</td> <td style="text-align: right;">(第14回)</td> </tr> <tr> <td>15. 総括</td> <td style="text-align: right;">(第15回)</td> </tr> </table>		1. 社会福祉の主体	(第1回)	2. 社会福祉ニーズの分類	(第2回)	3. 社会福祉ニーズの把握	(第3回)	4. 社会福祉援助の意味	(第4回)	5. 社会福祉の援助形態	(第5回)	6. 社会福祉の援助方法	(第6回)	7. 社会福祉の専門性と業務内容	(第7回)	8. 社会福祉専門職の倫理	(第8回)	9. 介護ニーズの社会的増大	(第9回)	10. 福祉士法の社会的意義	(第10回)	11. 福祉士法の全体的内容	(第11回)	12. 地域福祉の現状と課題	(第12回)	13. 日本の社会保障をめぐる最近の動向	(第13回)	14. 21世紀の社会福祉の傾向	(第14回)	15. 総括	(第15回)
1. 社会福祉の主体	(第1回)																														
2. 社会福祉ニーズの分類	(第2回)																														
3. 社会福祉ニーズの把握	(第3回)																														
4. 社会福祉援助の意味	(第4回)																														
5. 社会福祉の援助形態	(第5回)																														
6. 社会福祉の援助方法	(第6回)																														
7. 社会福祉の専門性と業務内容	(第7回)																														
8. 社会福祉専門職の倫理	(第8回)																														
9. 介護ニーズの社会的増大	(第9回)																														
10. 福祉士法の社会的意義	(第10回)																														
11. 福祉士法の全体的内容	(第11回)																														
12. 地域福祉の現状と課題	(第12回)																														
13. 日本の社会保障をめぐる最近の動向	(第13回)																														
14. 21世紀の社会福祉の傾向	(第14回)																														
15. 総括	(第15回)																														
<p>【評価方法】</p> <p>試験と出席状況。</p>																															

【授業科目】 老人福祉論 I	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 福祉援助学科 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>老人福祉についての基本的視点をしっかり身につけることを目標に授業を進めていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老人福祉の社会的背景について学ぶ 2. 老人福祉の理念・目的を学ぶ 3. 老人のおかれている状況及び生活実態について学ぶ 4. 現行および今後の老人福祉、老人保健の政策、制度について学ぶ また、老人福祉、老人保健サービスの体系、事業内容及び活用手続きなど、具体的実践活動について学ぶ 5. 老人福祉実践について具体的事例をもとに学び、ケアの在り方について学び考える 	
<p>【参考図書】</p> <p>「すべての人にゆたかな老いを」 (文理閣)</p> <p>「老いと暮らす」 (岩波書店・安田陸男著)</p> <p>その他、授業中に適宜紹介します。また、参考論文はコピーして授業で使います。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>授業は、上記授業目標を具体化し、プリントを中心に進めます。また、ビデオも活用します</p>	
<p>【評価の方法】</p> <p>授業は、定時に始めます。授業は最初から聞いていないと理解が不十分です。したがって、遅刻は厳しくチェックします。</p> <p>評価は、平常点（遅刻、欠席、数回実施するレポートの提出状況等）30%、前期試験（レポート）70%で、その総合点で評価します。</p>	

【担当科目】 老人福祉論 II	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 福祉援助学科 I年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>前期の「老人福祉論 I」授業を受け、介護福祉実習を控えて老人福祉の基本的視点を確立する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護保険制度について学ぶ 3. 自立とは何か、自立につながる援助とは何かを学ぶ 4. 在宅福祉への取り組み方について学ぶとともに、地域社会との連携の意義と方法について学ぶ 5. 家族やボランティアとの関わる意義と方法について学ぶ 6. 施設運営の円滑化、他業種との連携の意義と方法について学ぶ 7. 福祉労働の在り方について学ぶ 	
<p>【参考図書および教材】</p> <p>「すべての人にゆたかな老いを」・・・（文理閣 松井一晃、児島珠理共著） 「障害者の自立と発達保障」 （全障研出版部 加藤直樹著）</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>第1、2期介護福祉実習を意識し、多くの学生が卒業後に就く介護福祉労働の理論と実践を常に結びつけられるよう、ビデオやディスカッションもとり入れダイナミックに授業が進められるよう努める。</p>	
<p>【評価の方法】</p> <p>授業は、定時に始めます。授業は最初から聞いていないと理解が不十分です。したがって、遅刻は厳しくチェックします。</p> <p>評価は、平常点（遅刻、欠席、数回実施するレポートの提出状況等）30%、後期試験（レポート）70%で、その総合点で評価します。</p>	

【授業科目】 リハビリテーション論	【担当者】 溝呂木 忠
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>リハビリテーションとは、何らかの理由で生きづらくなっている人が再び自分の世界を作り上げていくプロセスと考えることができます。哲学として方法論としてのリハビリテーションを理解し、自分たちの仕事の方向付けと他職種との連携に役立てたい。</p> <p>知識を記憶するというより、自分の目線で考えた「myリハビリテーション論」を積み上げてください。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に指定しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>砂原茂一「リハビリテーション」岩波新書（¥660）</p> <p>その他は授業で紹介します。</p>	
授 業 計 画	
<p>講義1 リハビリテーションとケア</p> <p>講義2 障害と自立</p> <p>講義3 生活環境</p> <p>講義4 閉じこもり</p> <p>講義5 家族ダイナミックス</p> <p>講義6 チームワーク</p> <p>講義7 地域リハビリテーション</p> <p>講義8 QOLとSOL</p> <p>講義9 バリアフリーとユニバーサルデザイン</p> <p>講義10 ADAという「戦略」</p> <p>講義11 廃用症候群と生活デザイン</p> <p>講義12 新しい自分を生きるということ</p> <p>講義13 聴くということ</p> <p>講義14 ○○リハビリテーション（たとえば医学的）</p> <p>講義15 障害を体験すること</p> <p>講義のテーマや順序は進行の具合で、皆さんと相談しながら変更する場合があります。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と筆記試験（授業の進行具合によってはレポート）</p>	

【授業科目】 レクリエーション活動援助法	【担当者】 浮田千枝子・高橋紀子
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>介護の現場で必要とされるレクリエーション活動援助に関する基本的な知識や技術、援助者の役割と態度について学ぶ。また、介護現場でのレクリエーションの計画技術や援助実践能力の習得に力点をおき、個人ニーズの理解に基づいた利用者に応じたレクリエーション援助の展開法について実技および演習形式で学習する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『レクリエーション活動援助法』中央法規出版</p>	
<p>【参考書】</p> <p>随時提示する。また、授業中にプリント等を配布する。</p>	
授 業 計 画	
<p><前期></p> <p>目標：①レクリエーションについての基本的な理解を得る ②さまざまなレクリエーションの素材を体験し、その提供方法を学ぶ。特にグループを活用したレクリエーション体験を中心に学ぶ。</p> <p>内容：I. レクリエーションの基本的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーションとは何か ・社会福祉におけるレクリエーションの役割 ・福祉サービス利用者の生活の特徴とレクリエーション活動の意義 ・社会福祉とレクリエーションの歴史 など <p>II. レクリエーション活動の体験とその提供方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを促進する実技 ・福祉サービス利用者を意識したレクリエーション活動の体験 ・グループを活用したレクリエーションの提供方法 など <p><後期></p> <p>目標：①レクリエーション活動の援助計画の立て方を学ぶ。 ②利用者一人ひとりにふさわしい個別レクリエーション活動の提供方法を学ぶ。 ③事例研究を通して援助者の役割を学ぶ。</p> <p>内容：I. レクリエーション活動援助計画の立案～介護実習Ⅰを素材に～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助計画立案の基礎（条件、手順、など） ・援助計画立案の実際<演習> ・実施と評価の方法 ・実習でのレクリエーション活動援助のふり返り <p>II. 個別レクリエーション活動の提供方法～介護実習Ⅱに向けて～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の理解とニーズをどう把握するか ・余暇歴およびレジャーカウンセリングの方法 ・個別レクリエーション活動援助の要点とその方法 <p>III. 事例研究および援助者の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者へのレクリエーション活動援助 ・障害者へのレクリエーション活動援助 ・レクリエーション活動援助者に求められるもの～まとめ～ 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・授業態度・授業中に課すレポート・学年末試験により総合的に評価する</p>	

【授業科目】 老人の心理	【担当者】 安藤孝敏
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、高齢者の心理的特徴についての基礎的な知識を学ぶことにより、支援したり介護したりする高齢者をより深く理解できるようにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>長嶋紀一・佐藤清公（編） 介護福祉士選書7「老人心理学」 建帛社 2000年</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老化とは 老化のとらえ方、老化説、老化のあらわれ方について理解し、老年期とはどのような時期であるのかについて考える。 2. 精神機能と知的機能の変化 加齢にともなって精神機能と知的機能がどのように変化するのかについて理解する。 3. 老年期のパーソナリティと適応 パーソナリティの発達理論やパーソナリティの変容について知ることにより、老年期のパーソナリティをより正しく理解する。 4. 老年期の異常心理 意識混濁、妄想、幻覚など的高齢者にみられる異常心理を理解する。 5. 老年期痴呆 痴呆の原因と種類、症状のあらわれ方や経過、心理的特徴、具体的対応の仕方などを理解する。 6. 老年期の人間関係 老年期における人間関係を高齢者自身の変化と環境の変化からとらえ、どのようにすれば老年期の生活の質を高められるのかについて理解する。 7. 高齢者と死 死の定義、死に対する恐怖、死についての態度の発達、死のプロセスなどを知り、老いの究極点である死についての理解を深める。 8. 高齢者とのかかわり方 高齢者の生涯学習と社会参加、高齢者への精神的援助としての精神療法などについて理解する。 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試験と出席状況により評価する</p>	

【授業科目】 障害者の心理	【担当者】 奥住秀之
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>①障害児・者の心理・教育に関する基本的な事柄を学習しましょう</p> <p>②障害児・者を取り巻く諸問題について学ぶべき課題を考えましょう</p>	
<p>【テキスト】 茂木俊彦：新障害児教育入門．労働旬報者．1995年． ISBN4-8451-0404-0．1600円</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p><u>教材について</u></p> <p>①テキストを読みながら授業を進めますので、必ず購入してください</p> <p>②随時、ビデオや配布資料を使います</p> <p><u>授業内容について</u></p> <p>①障害児・者ってどんな人</p> <p>②障害の定義について知ろう</p> <p>③いろいろな障害について学ぼう</p> <p>視覚障害</p> <p>聴覚障害</p> <p>知的障害（精神遅滞）</p> <p>脳性麻痺</p> <p>ダウン症</p> <p>学習障害</p> <p>④発達の基礎を知ろう</p> <p>⑤障害児・者とかかわるとき</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席，テスト，レポートなどから総合的に判断します</p>	

【授業科目】 家政学概論Ⅰ	【担当者】 風見公子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の生理機能と栄養の関係について理解させる。 2. 高齢者、障害者（児）の栄養摂取など、食生活のあり方について理解させる。 3. 食品衛生を含んだ食品についての知識を学ばせる。 4. 調理の概要について理解させる。 	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">山口和子 編著 「家政学概論Ⅱ－栄養・調理編－」 建帛社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>参考書は授業の中で、適宜、紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の機能と栄養素 <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養摂取の意義と口腔からの食物摂取 2) 栄養素の機能とその消化吸収 3) 栄養所要量 4) 食事リズム 5) ストレスと栄養 2. 高齢者・障害者（児）と栄養 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の栄養と食生活のあり方 2) 障害者（児）の栄養と食生活のあり方 3) 生活習慣病予防と食事 3. 食品・調理 <ol style="list-style-type: none"> 1) タンパク質性食品の性質と調理特性 2) 脂肪性食品の性質と調理特性 3) 炭水化物性食品の性質と調理特性 4) 食品成分の変化 5) 食品の保存性と安全性 6) 食べ物の嗜好性、おいしさ 7) 調理器具、設備、エネルギー源 	
<p>【評価方法】</p> <p>試験及び出席状況</p>	

<p>【授業科目】 家政学概論Ⅱ</p>	<p>【担当者】 中川英子</p>
<p>【開講期】 1年 後期</p>	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個人と家庭生活について、家族や社会との関係から理解すること。 2. 家庭生活および被服生活、住居生活について、経営・管理する能力を養うこと。 3. 介護の基礎となる高齢者・障害者の生活について、幅広い知識を得ること。 4. プロの介護福祉士として、生活の多様な実務に対応できる人材を育成すること。 	
<p>【テキスト】</p> <p>最新介護福祉全書10巻 家政学概論 (株)メヂカルフレンド社 平成11年</p>	
<p>【参考書】</p> <p>図説 家庭科資料集 岩崎芳枝 監ほか 実教出版(株) 1998年 その他、授業中に随時提示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2～6 回 個人と家庭生活 ：個人の生活と家庭や社会との関係、家庭生活や生活設計の意義などを学ぶことによって、高齢者・障害者の家庭生活の特徴と問題点を理解する。 Ⅰ 家庭生活の基礎的知識 Ⅱ 高齢者・障害者の家庭生活の問題点と特徴</p> <p>第 7～10回 衣生活 ：生活の中での被服の役割、素材や選び方、管理の仕方などを学ぶことによって、高齢者・障害者の被服生活の特徴と問題点を理解する。 Ⅰ 衣生活の基礎知識 Ⅱ 介護と衣生活</p> <p>第 11～14回 住生活 ：住まいの機能を理解し、日本の住生活の課題を踏まえた上で、快適な住生活について考える。さらに高齢者や障害者の理想的な住まいとそのための福祉制度や介助の在り方を理解する。 Ⅰ 住生活の基礎知識 Ⅱ 高齢者・障害者と住生活</p> <p>第 15 回 総括および介護福祉士国家試験模擬テスト問題「家政学概論」のチェック</p> <p>註) 上記の授業計画は、授業の実施回数によっては変更もありうる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>模擬テスト「知ってますか生活知識」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ビデオ ・「あのころの日本」 (戦後～昭和30年代初頭) ・各種の消費者問題ビデオ 教 材 ・生活設計ワークシートほか</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ビデオ ・「あのころの日本」 (昭和30年代前半) ・「繊維って何だろう」ほか 教 材 ・繊維サンプル ・各種洗剤・漂白剤サンプルほか</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ビデオ ・「あのころの日本」 (昭和30年代後半) ・「住まいの工夫」 ・「お年寄りに優しい住まい作り」 ・「住環境と福祉機器」</p> </div>
<p>【評価方法】</p> <p>期末テスト・課題に加えて、授業態度・出席率なども評価の対象とする。</p>	

【授業科目】 医学一般 I	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>人体の解剖・生理を中心に学習する。これらを基礎として、肢体不自由や内部障害・加齢現象や加齢による障害の理解をはかる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>からだの構造と機能 A. シェフラー ,S. シュミット著 (西村書店)</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】 人体の構造と機能 エレインN. マリープ著 (医学書院) 介護福祉士養成講座 14 障害形態別介護技術 (中央法規)</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 人体の解剖学・生理学—人体の各部の名称と構成、機能の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳・神経系 2) 循環器系 3) 呼吸器系 4) 消化器系 5) 泌尿器系 6) 生殖器系 7) 内分泌系 8) 血液系 9) 感覚系 10) 運動系 <p>2. 肢体不自由や内部障害の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 肢体不自由とは <ol style="list-style-type: none"> ① 脳卒中後遺症による肢体不自由 ② 脳性麻痺、脊髄損傷、慢性関節リウマチによる肢体不自由 2) 内部障害の理解 <ol style="list-style-type: none"> ① 心機能障害 ② 呼吸機能障害 ③ 腎機能障害 ④ 消化器機能障害 <p>3. 高齢者の心身機能障害に対する理解</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点と筆記試験</p>	

【授業科目】 医学一般Ⅱ	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1年 後期	
【授業目標】 1.人体の構造と機能の総合的理解をはかる。 2.胎生期から老年期に至る発達・成長・加齢現象の理解を基礎として、高齢者と高齢者疾患に対する理解を深め、その対処法を習得する。 3.福祉現場で遭遇する代表的疾患の理解をはかる。	
【テキスト】 介護福祉士養成講座 10 医学一般 (中央法規)	
【参考書】 ベッドサイドマニュアル 成人内科看護 (中央法規) エキスパートナース 内科疾患看護マニュアル (小学館) 看護観察のキーポイントシリーズ 高齢者 (中央法規)	
授 業 計 画	
1. 各器官の構造と機能の理解と、臓器相互関係の理解も図る。 2. 胎生期から老年期に至る発達・成長・加齢現象の理解 ①老人特有の症候の理解と対処法 1) 意識障害 2) 不眠 3) 転倒 4) 尿失禁 5) めまい 6) 誤嚥 7) 腰痛 8) 脱水・浮腫 9) 便秘 10) decubitus 11) 譫妄 12) 手足のしびれ など ②老年者の救急疾患と対策：心臓血管系疾患・精神神経疾患・呼吸器疾患・ 消化器疾患での救急時の症状理解とその対処法の修得。 ③ターミナルケア：ターミナルケアの捉え方と理想的なターミナルケアの在り方を考える 3. 代表的疾患の概要 1) 循環器系；高血圧・虚血性心疾患・心不全・不整脈など 2) 脳・神経系；脳血管障害・神経痛・末梢神経障害・パーキンソン病・脳性麻痺 脊髄小脳変性疾患・筋疾患・など 3) 内分泌・代謝系；糖尿病・痛風・甲状腺機能亢進症と低下症・高脂血症など 4) 腎・泌尿器系；尿路感染症・前立腺肥大症・前立腺癌・膀胱癌・腎不全など 5) 血液系；貧血・成人 Tcell 白血病・悪性リンパ腫など 6) 呼吸器系；肺炎・結核・インフルエンザ・ARDS 7) 消化器系；肝炎・出血性大腸菌感染症・消化性潰瘍など 8) 各種感染症；法定伝染病・指定伝染病・食中毒・日和見感染・MRSA など 9) 筋・骨・関節系；骨折・脊髄損傷・骨粗鬆症・変形性脊椎症・慢性関節リウマチなど 10) 癌・生活習慣病 11) 難病・先天性疾患	
【評価方法】 出席点と筆記試験	

【授業科目】 精神保健	【担当者】 青田洋一
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代精神医学の基礎的知識を習得し、精神障害に対する誤解・偏見をとくこと。さらに、その知識を日常生活において役立てていけること。</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】 ナンシー・C・アンドリアセン『故障した脳』（紀伊國屋書店）</p>	
授 業 計 画	
<p>おおよそ以下の項目にそって進める。</p> <p>①総論…精神障害とは？ 予防とは？</p> <p>②基本的用語の理解 不安, 恐怖, 強迫, 離人, 心気, 抑うつ, 躁, 幻覚, 妄想, せん妄 もうろう, 憑依, 痴呆, 健忘, e t c</p> <p>③精神障害の分類</p> <p>④精神分裂病</p> <p>⑤躁うつ病</p> <p>⑥神経症</p> <p>⑦その他の精神障害</p> <p>⑧精神障害の治療</p> <p>⑨精神障害と責任能力</p> <p>⑩精神医療の現状と問題点</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験 (テスト)</p>	

【担当科目】 介 護 概 論 I	【担当者】 関谷 榮子
【開講期】 1 年 前 期	
【授業 目標】 1. 介護の目的と機能、介護援助の基本原則を理解する。 2. 人間の発達と自立的生活の過程についての知識を持ち、高齢者や障害者の介護並びにその家庭に対する援助について学ぶ。 3. 介護を行うに際して必要な援助方法の理論と実際を学ぶ。	
【テキスト】 テキスト 介護概論 メジカルフレンド社	
【参考書】 講義の中で随時紹介する。	
授 業 計 画	
1. 介護の概念 1) 介護の目的・定義（根拠法律 社会福祉士・介護福祉士法 自立支援 人権尊重） 2) 介護の倫理（職業倫理、守秘義務、信用失墜行為の禁止） 3) 介護の領域（関係領域） 4) 介護の歴史 2. 介護援助の方法 1) 介護援助の原則（自己決定 自己選択） 2) 介護援助関係（対人援助の技法 日常生活援助） 3) 介護過程（科学的問題解決法、事例研究方法） 4) 介護援助技術（観察、コミュニケーション、記録、報告） 3. 介護援助の対象 1) 利用者の理解（高齢者及び障害者の心と身体的特徴の理解） （老いとはなにか、一人一人の歴史を知る） （障害者とはどういう人か） 2) 利用者の援助課題（身体的生活援助 文化的社会的な生活援助） （1）自立的な生活維持に対するニーズと介護の機能 （2）健康のメカニズムと健康障害時のニーズと介護の役割 （3）高齢者、障害者（児）の生活障害と介護の役割 （4）終末ケア、緊急時の対応における介護の役割 （5）個別ケアの進め方、受け持ち利用者の介護計画 4. 介護管理 1) 環境の整備 2) 安楽と安全 3) 社会生活の維持と拡大 4) 生活リズムと健康習慣の維持 5) 労働安全、事故防止	
【評価方法】 レポート 及びペーパー試験	

【担当科目】 介護概論Ⅱ	【担当者】 関谷 榮子
【開講期】 1 年 後 期	
<p>【授業 目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を必要とする人たちの身体・精神的健康状態の変化に対応した、介護援助サービスの提供方法、提供の場について理解する。 2. 介護と家政、看護・医療など関係領域や関係職種との連携について理解する。 3. 個別介護計画及び、ケアプランの作成方法を学び、ケア・マネジメントについて理解する。 4. 介護サービス提供の場について理解する。 5. 自己の介護観を確立する。 	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">テキスト 介護概論 メジカルフレンド社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】 講義の中で随時紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護活動の場に特有の問題と介護の技法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 入居型福祉施設（長期、短期） 2) 居宅型福祉施設、（在宅支援センター、デイサービス、ホームヘルプサービスなど） 3) 地域における福祉関係者との連携・協力方法 2. 個別介護計画（ケアプラン）の立て方と応用方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護計画と記録の方法、活用方法、評価方法 2) ケースカンファレンスの方法 3) ケアマネジメントの方法 4) ケアプランの作成と応用方法 3. 関係機関と関連領域との連携 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護と家政、看護・医療、家政管理、栄養調理、リハビリテーション部門との連携及び業務範囲 2) 地域関係期間との連携・地域ケア部門との連絡連携 4. 地域ケアと在宅ケア <ul style="list-style-type: none"> ホームヘルプ活動 ホームヘルパーとは 5. 介護観の確立へ向けての自己学習課題の設定 6. 先進的事例について学ぶ 	
<p>【評価方法】 レポート 及びペーパー試験</p>	

【授業科目】 介護技術Ⅰ	【担当者】 中山幸代・西方規恵
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】 (介護技術ⅠⅡⅢ共通)</p> <p>1 介護技術の習得に際しては、下記の2点を目標にする。</p> <p>1) それぞれの介護技術の根拠となる基本的知識を学ぶ。</p> <p>2) 利用者の自立と安全・安楽に配慮した基礎的介護技術ができる。</p> <p>2 介護に適した住い、住設備機器及び福祉用具について学ぶ。</p> <p>3 介護過程の展開方法について学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>新版 介護福祉士養成講座『介護技術』Ⅰ・Ⅱ 中央法規出版</p> <hr/> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1 コミュニケーションの技法</p> <p>1) 傾聴</p> <p>2) 面接時の洞察、共感の技法</p> <p>3) 言葉や身振りの理解と問題確認の技法</p> <p>4) 自己の役割を伝え、納得と合意をうる表現技法</p> <p>2 状態の変化の確認と不調のきざしの発見の技法</p> <p>1) 眠りかたや目覚めの状態の変化</p> <p>2) 体温、脈拍、呼吸、皮膚の状態の変化</p> <p>3) 嚥下の状態や排泄物の変化</p> <p>4) 状態に対する理解力、判断力の変化</p> <p>5) 感情の変化</p> <p>6) 視覚、聴覚及び知覚の変化</p> <p>3 安全で危険のない住いや居住環境の整え</p> <p>1) 移動スペースに応じた住いの配置、位置、高さ</p> <p>2) 浴室、トイレ、台所等の居住環境の整え</p> <p>3) プライバシー空間の設営</p> <p>5) 衣類、寝具の衛生管理並びに掃除、ベットメイキング</p> <p>4 社会生活維持拡大への技法</p> <p>1) 体位変換と安楽な体位の工夫 (用具の用いかた)</p> <p>2) 歩行介助、車椅子、ストレッチャー介助</p> <p>3) ベット上の座位、立位の介助</p> <p>4) 機能維持の運動と機能訓練への援助</p> <p>つどい、外出、遠足 (遠出) など</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートとテストにより評価する。</p>	

【授業科目】 介護技術Ⅱ	【担当者】 中山幸代・西方規恵
【開講期】 1年 後期	
【授業目標】 (介護技術ⅠⅡⅢ共通) 1 介護技術の習得に際しては、下記の2点を目標にする。 1) それぞれの介護技術の根拠となる基本的知識を学ぶ。 2) 利用者の自立と安全・安楽に配慮した基礎的介護技術ができる。 2 介護に適した住い、住設備機器及び福祉用具について学ぶ。 3 介護過程の展開方法について学ぶ。	
【テキスト】 新版 介護福祉士養成講座『介護技術』Ⅰ・Ⅱ 中央法規出版	
【参考書】	
授 業 計 画	
1 衣服の着脱 2 食事 食事場所や食器等用具の整え、姿勢や口の状況に適した介助・好みへの配慮と食事量の観察、誤飲防止・脱水防止 3 身体の清潔 口、目、耳、鼻、爪等・頭髪の清潔法、清拭法 (全身・部分)、部分浴 (手浴・肘浴・足浴) 入浴法 (家庭浴槽、簡易浴槽、機械浴、一般浴) 4 排泄 トイレでの排泄介助、ポータブルトイレ・便器・尿器による排泄介助、排泄の自立度に応じた衣類寝具の選択と介助、失禁時の対応と排泄自立への配慮と介助、便秘・下痢等の対応、おむつ交換、排便、膀胱留置カテーテルの知識 5 安楽と安寧の技法 指圧・マッサージ、巻法、安眠への援助 6 福祉用具の概要と活用 福祉用具の意義、概要関福祉用具の選択、活用及び管理にする援助 7 医療、看護対応時の介助 受診時の介助、薬の管理と与薬時の介護 8 じょく創予防と創の手当ての基礎知識 9 感染予防 10 危篤時の介護と死後の処置 11 緊急事故時の対応 救急法 (消防署による普通救命講習)、応急手当て、事故時の対応と保健医療福祉関係者等への連絡	
【評価方法】 レポートとテストにより評価する。	

【授業科目】 介護技術 Ⅲ	【担当者】 中山幸代・西方規恵
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】 (介護技術ⅠⅡⅢ共通)</p> <p>1 介護技術の習得に際しては、下記の2点を目標にする。</p> <p>1) それぞれの介護技術の根拠となる基本的知識を学ぶ。</p> <p>2) 利用者の自立と安全・安楽に配慮した基礎的介護技術ができる。</p> <p>2 介護に適した住い、住設備機器及び福祉用具について学ぶ。</p> <p>3 介護過程の展開方法について学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>新版 介護福祉士養成講座『介護技術』Ⅰ・Ⅱ 中央法規出版</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1 体温・脈拍・呼吸・血圧の測定法</p> <p>2 介護過程の展開</p> <p>1) ケアマネジメントとケアプラン</p> <p>2) ケアプランと介護過程</p> <p>3) 事例に基づく介護過程の展開</p> <p>アセスメント、介護計画の作成、実施、評価</p> <p>3 記録のとり方と報告のしかた</p> <p>1) 記録の種類と方法、保管</p> <p>2) 報告のしかた</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートとテストにより評価する。</p>	

【授業科目】 形態別介護技術Ⅰ（老人介護）	【担当者】 新井幸恵
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人が老いるということについて発展的に理解する 2 誕生から死に至る過程を連続したものとして理解する 3 老化の過程で現れる心理的、身体的、社会的変化を理解する 4 老化に伴う疾病や生活障害を解決するための一手法としての介護技術を習得する 5 高齢者を取り巻く人的、社会的環境がその生きる力を励ます事を理解する 	
【テキスト】 形態別介護技術 中央法規出版	
<p>【参考図書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 窪田暁子「小春日和の午後に ケアの思想を読む」ドメス出版 2 カルドマ 木村哲子「アルツハイマーよ こんにちは」誠信書房 3 外山 義「クリッパンの老人達 スウェーデンの高齢者ケア」ドメス出版 	
<p>授 業 計 画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学生の肉親,または近隣の高齢者について、生活史の聞き取りを課題としこの中で高齢者像を具体的に理解する また高齢者の豊かさ、賢さ、したたかさ等を感じ取りその尊厳を positive に理解する 2 卒業生のケーススタディ等を通じて、介護の場面で出会う高齢者の特徴を学ぶ 種類の障害を持つ介助の必要な高齢者について、生活場面での介護技術を学ぶ 3 入所施設、通所施設、在宅などの福祉現場の事例を通じて介護の実際を学ぶ 4 介護を進めるにあたって活用すべき福祉制度、社会資源、連携する各専門家集団について理解する 	
【評価方法】 レポート及びテストにて行う	

<p>【担当科目】 形態別介護技術 II (内部障害・肢体不自由・知的障害・精神障害)</p>	<p>【担当者】 落海 文子</p>
<p>【開講期】 1 年 後 期</p>	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肢体不自由者(児)・内部障害者に関する医学的知識及び生活障害に関する総合的知識を学ぶ。 2. 肢体不自由者(児)・内部障害者に対する日常生活上の介護・援助方法を体系的に学ぶ。 	
<p>【テキスト】 テキスト 障害形態別介護技術 (中央法規出版KK)</p>	
<p>【参考書】 参考書、資料、ビデオなどを講義のなかで随時紹介する。</p>	
<p style="text-align: center;">授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 肢体不自由・内部障害をもたらす原因疾患について、基礎的知識を学ぶ。 2. 肢体不自由者(児)・内部障害者の障害をもつことにより発生する生活の障害について理解する。 3. 肢体不自由者(児)・内部障害者のニーズに合った介護技術を習得する。 4. 障害を持つ人々の心理や行動特徴を理解し、QOL向上をめざした生活支援の方法を学ぶ。 5. 介護に必要な福祉用具の知識と活用方法を学ぶ。 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート 試験 平常点</p>	

【授業科目】 形態別介護技術Ⅳ（聴覚障害）	【担当者】 奥田啓子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害に関する医学的基礎知識を習得する。 2. 残存感覚機能の特性を理解し、その活用法を習得するとともに、音声言語に代わるコミュニケーション方法について理解する。 3. 聴覚障害者の生活・心理に配慮した介護のあり方を考える。 4. 他の障害をあわせ持つ重複障害者の介護について考える。 	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">「手にことばを(初級)」 東京都聴覚障害者連盟発行</p>	
<p>【参考書】</p> <p style="text-align: center;">「わたしたちの手話(1)」 全日本ろうあ連盟 発行</p> <p style="text-align: center;">その他、講義の中で随時紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害の原因・種類・程度と聴覚障害者の日常生活 2. 聴覚障害者のコミュニケーション方法 3. 介護上の諸問題への対応(具体的な事例を通しての考察) 4. 残存感覚機能を活用するための福祉機器について 5. 聴覚障害者と社会生活 6. 手話の基礎知識と指文字の習得 7. 日常生活場面での手話表現 8. 介護場面で想定される会話の手話表現 <p style="margin-top: 20px;">* 聴覚に障害を持つという状況への理解を通し、福祉援助に関わる姿勢について考えてほしい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点と筆記試験によって評価する。</p>	

【担当科目】 介護実習 I	【担当者】 関谷榮子・中山幸代・西方規恵・新井幸恵、落海文子、他
【開講期】	1 年 後 期
<p>【授業 目標】</p> <p>実習第 I 期（見学実習）</p> <p>(1) 利用者が施設を利用することになった経過や現在の生活状況を把握し、個別的な介護がどのように行われているかを知る。</p> <p>(2) 施設における介護職員の役割を理解し基礎的な介護技術を習得する。</p> <p>(3) 施設職員の職種と業務内容を知る。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>実習要項他</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>実 習 計 画</p>	
<p>1. 施設の沿革、方針、建物の構造、業務内容、職員の勤務体制、サービス内容、諸注意などについて把握し理解する。</p> <p>2. 介護者の援助の視点と方法を把握し、施設職員にふさわしい態度を身につける。</p> <p>3. 利用者について理解する。</p> <p>4. 利用者とのコミュニケーションの方法を習得する。</p> <p>5. ボディランゲージなどの非言語的コミュニケーションの有効な活用方法を習得する。</p> <p>6. 日常生活の援助の方法を習得する。</p> <p>7. 利用者に行われている介護技術の目的と意義を理解し基礎的な介護技術を実践する。</p> <p>実習期間 平成13年11月5日から24日までの15日間</p> <p>実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。</p>	
<p>【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。</p>	

【担当科目】 介護実習 II	【担当者】 関谷 榮子・中山 幸代・西方 規恵・新井 幸恵・落海 文子他
【開講期】	1 年 後 期
【授業 目標】 実習第Ⅱ期（参加実習） （１）利用者の障害のレベルと内容に応じた介護技術を習得する。 （２）施設における他職種の業務の実際について学び連携方法を知る。 （３）地域社会における施設の役割を理解し在宅福祉サービスの各事業とその機能について学ぶ。 （４）受け持ち利用者を選定しアセスメント（情報収集と介護上の問題の明確化）ができる。	
【テキスト】 実習要項他	
【参考書】 実 習 計 画	
1. 施設の沿革、方針、建物の構造、業務内容、職員の勤務体制、サービス内容、諸注意などについて把握し理解する。 2. 利用者の障害に応じた個別的な介護技術を習得する。 3. 他職種との連携方法を学ぶ 生活指導員、意志、看護婦、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、の業務を見学しそれぞれの職種の役割を知る。また介護職員との連携の方法を学ぶ。 4. 地域における施設の役割を理解する。 1) ショートステイ、デイサービス、入浴サービス、在宅介護支援センターの機能について学ぶ。 5. 受け持ち利用者のアセスメントの方法を学ぶ。 1) 実習終了までに実習指導者の助言を得て受け持ち利用者の情報収集をする。 2) 受け持ち利用者の介護上の問題を把握する。 その際には利用者の持つ力を信じてその力を引き出し強めるような援助の視点を重視する。 6. ケース会議に参加し利用者のケアプランが作成評価される過程を学ぶ。 7. 行事・レクリエーション活動への参加 行事レクリエーション活動に参加し、企画・実施・評価のプロセスを学ぶ。	
・施設実習 実習期間 平成14年2月18日から3月9日までの15日間 実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。	
・在宅介護実習（訪問介護実習）を平成14年5月から7月にかけて3日間実施する。 詳細は実習指導の時間にオリエンテーションする。	
【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。	

【担当科目】 実習指導 I	【担当者】 関谷榮子・中山幸代・西方規恵・新井幸恵・落海文子他
【開講期】	1 年 後 期
【授業 目標】 (1) 体験学習の意義と重要性について理解する。 (2) 体験学習を通じて知識・技術、態度を具体的に实际的に応用する能力を身につける。 (3) 学校内において習得した諸学習を応用し施設実習において実践的な技術を体得する。 (4) 介護福祉専門職としての自己覚知をもち、専門職に求められる資質技能及び自己に求められる課題把握など、総合能力を修得する。 (5) 個別介護計画を立てて実施し評価する方法を学ぶ。	
【テキスト】 実習要項他	
【参考書】	
授 業 計 画	
<前半> 1. 実習第 I 期に向けての準備 1) 課題レポートのグループ討議 2) 配属施設の決定 2. 実習第 I 期に向けての準備 1) 実習前のオリエンテーション ・ 実習目的の理解 ・ 学生の自己学習目標をたてる。 2) 実習の注意 ・ プライバシー保護 ・ 見学実習の意義 3) 実習記録 ・ 記録の意義と書き方 ・ 記録の取扱い方 4) 実習第 I 期へ向けての個別面接 5) 施設オリエンテーション － 第 I 期介護実習（平成 13 年 11 月 5 日～11 月 24 日までのうち 15 日間）－ <後半> 3. 第 I 期実習後のスーパービジョン 1) グループスーパービジョン 2) 記録の評価 3) 実習のまとめ 自己評価 4) 個別面接 4. 第 II 期実習に向けての準備 1) 配属施設の決定 2) 介護過程（受け持ち利用者のアセスメントについていての演習） 3) 個別面接 － 第 II 期介護実習（平成 14 年 2 月 18 日～3 月 9 日までのうち 15 日間）	
【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。	

【授業科目】 福祉研究入門 【担当者】 明渡陽子 山口尚子 中山幸代 西方規恵

【開講期】 1年 前期

【授業目標】

- 1 福祉研究に対する関心を深め研究的態度の初歩を学ぶ。
- 2 文献抄読、文献研究の初歩的な方法を理解する。
- 3 小グループのディスカッションを体験して、他の人の意見を傾聴したり自分の考えをまとめる。

【テキスト】

- 1 小山内美智子 『あなたは私の手になれますか』、中央法規、¥1500 (税別)
- 2 阿部初枝 『たまゆらの一老人の性を考える一』、日本看護協会出版会、 ¥1500
- 3 日野原重明 『人生の四季に生きる』、岩波書店、 ¥1700 (税別)

授 業 計 画

前期 毎週火曜日

授業回数	月日	授 業 内 容 14:40~16:10
		4/2 入学式(4/3~4/5 オリエンテーション・健康診断)
1	4/10	オリエンテーション (授業計画、担当教員とメンバー) と自己紹介
2	4/17	抄読会『あなたは私の手になれますか』① 第1章とビデオ鑑賞
3	4/24	施設見学・オリゼミ
		4/25 オリゼミ
	5/1	抄読会『あなたは私の手になれますか』② 第2章
4	5/8	抄読会『あなたは私の手になれますか』③ 第3章
5	5/15	抄読会『あなたは私の手になれますか』④ 第4章
6	5/22	抄読会『たまゆらの一老人の性を考える一』① p.i ~ 42
7	5/29	抄読会『たまゆらの一老人の性を考える一』② p.43 ~ 74
8	6/5	抄読会『たまゆらの一老人の性を考える一』③ p.75 ~ 121
9	6/12	抄読会『たまゆらの一老人の性を考える一』④ p.122~ 188
10	6/19	抄読会『人生の四季に生きる』① p.1~48
11	6/26	抄読会『人生の四季に生きる』② p.49~96
12	7/3	抄読会『人生の四季に生きる』③ p.97~134
13	7/10	抄読会『人生の四季に生きる』④ p.135~201
14	7/17	介護実習オリエンテーション (配属先発表他)
15		定期試験 (7/26~8/1)
		夏期休業 (8/2~9/8 まで授業なし)

【評価方法】

レポートと平常点(グループ討議への参加度など)により評価する

【授業科目】 家族福祉論	【担当者】 寺田貴美代
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 少子・高齢化社会のなかで、家族は大きく変化し、さまざまな課題を抱えています。講義では、かつての定義や概念が大きく揺れている家族の現状を明らかにし、家族に問われている問題について、社会福祉とのかかわりから説明したいと思います。	
【テキスト】 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>	
【参考書】 山根常男[等]編『わかりやすい家族関係学(MINERVA 福祉ライブラリー⑦)』ミネルヴァ書房, 1996 後藤澄江『現代家族と福祉』有信堂, 1997	
授 業 計 画	
<p>第1回 ガイダンス 家族福祉論について</p> <p>第2回 家族とは何か ①</p> <p>第3回 家族とは何か ②</p> <p>第4回 夫婦と家族 ① (結婚と離婚)</p> <p>第5回 夫婦と家族 ② (家族内役割分担とジェンダー)</p> <p>第6回 子どもと家族 ① (少子化)</p> <p>第7回 子どもと家族 ② (子育てと福祉)</p> <p>第8回 高齢者と家族 ① (高齢化)</p> <p>第9回 高齢者と家族 ② (高齢者ケア)</p> <p>第10回 地域社会と家族 ① (地域社会の変化)</p> <p>第11回 地域社会と家族 ② (コミュニティ・ケア)</p> <p>第12回 国際化と家族</p> <p>第13回 社会と家族</p> <p>第14回 まとめ</p>	
【評価方法】 基本的にはテストで評価しますが、授業中に配布するプリント(作業や感想など)の提出率を、平常点として加算します。	

授業科目	カウンセリング	担当者	林 潔
開講時期	1年前期		
授業目標	カウンセリングの基礎について紹介します。		
テキスト	なし		
参考書	随時紹介します。		
授 業 計 画			
<p>話し合いを中心とするカウンセリングの役割と、福祉援助活動におけるその役割について考えます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉援助とカウンセリング 2. さまざまなカウンセリング活動について。 3. カウンセリングの進め方 (V T R) 4. カウンセリングの基礎としての Rogers のカウンセリング (1) 人格論 5. 同 (2) 方法 6. 認知行動療法概説 (1) 行動モデル 日常的な問題についての取り組みには、その人の考え方をチェックして、感情や行動の変革を図ろうとする認知行動療法の方法が結構使えると思います。 7. 同 (2) 認知行動療法の原理 8. 同 (3) 認知行動療法の方法 			
評価方法	平常点、指定図書レポート、レポートで評価します。		

【授業科目】 発達心理学	【担当者】 奥住秀之
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>①人間の発達に関する基本的な事柄を学習しましょう</p> <p>②子どもの健やかな発達を保障する、周りのおとなの役割を学習しましょう</p>	
<p>【テキスト】 近藤直子：ぐんぐん伸びろ発達の芽。全国障害者問題研究会出版 1995年。ISBN4-88134-063-8。1600円</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p><u>教材について</u></p> <p>①テキストを読みながら授業を進めますので、必ず購入してください</p> <p>②随時、ビデオや配布資料を使います</p> <p><u>以下のような流れで、発達の基礎を学びましょう</u></p> <p>①「発達する」って、どういうことなんだろう</p> <p>②子どもは何歳になると何ができるようになるんだろう</p> <p>③子どものことばってどのように発達するのかな</p> <p>④子どものあそびって、おともだち（なかま）って、 どのように発達に影響するのだろうか</p> <p>⑤ちょっと気になる子どもの行動とは</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席，テスト，レポートなどから総合的に判断します</p>	

[授業科目名]	遊びの造形	担当者 八木紘一郎・枝常 弘
[開講期]	1年前期	
[授業目標]	<p>人間として生きる力の源泉ともいえる「遊び心」を豊かに活性化させる援助技術の基本を扱う。</p> <p>介護現場における利用者(高齢者)の表現文化性を豊かに援助するために欠かせない知識と、基本的に必要な介護士自身のための表現文化的なセンスとテクニックを高めることを目指す。</p>	
[テキスト・参考書]	なし	
授 業 計 画		
<p>人は、高齢者になればなるほど 表現文化的な充足感を満たせるように援助する必要がある。その欲求を高齢者自身が自覚しなでいるように思われるが、人間としての文化的存在欲求は誰もが持っている。となく、身の介護援助に追われがちであるが、文化的存在としての一人ひとりの個性的な欲求充足を満たせるように、援助者のセンスとテクニックが求められる。</p>		
<p>特に「遊び心」は重要な生きる活力である。その「遊び性」を豊かに楽しみ充足していけるように企画、運営、援助していくことが非常に重要な介護士のしごとである。そのために欠かせないのは介護士自身の遊びセンスとテクニックである。昨今の若者たちの遊びセンスとテクニックを磨いていくための講座となる。</p>		
<p>この授業は選択であるが、担当講師である「枝常弘・八木紘一郎」の二人は、「のっぽさんとゴン太」でおなじみの造形番組NHKテレビ『できるかな』を制作担当してきた経歴を生かして、高齢者のための「遊びの造形」アイデアを提供する。</p>		
<p>授業内容は</p>		
<p>1、身近な素材</p>		
<h2>紙を使って・・・遊びを創りだす</h2>		
<p>飛んだり、転がったり、立ったりする、うごきのしかけや、物語的な遊びのしかけ</p>		
<p>2、動物や人の描き方とポップアップカードの作りかた</p>		
<p>3、高齢者のための誕生カードづくり</p>		
<p>できれば手づくりで遊べるゲーム盤づくりにもチャレンジする。</p>		
[評価方法]	平常点	

<p>[授業科目名] シニアの音楽とダンス</p>	<p>[担当者] 秋山治子</p>
<p>[開講期] 1年 前期</p>	
<p>[授業目標]</p> <p>音楽のある生活を、心やすらげる空間と時間に作りあげて、高齢者に提供することを考え、工夫する。そのための音楽力、音楽性を養うために、音楽療法の楽しいセッションの模倣や検証をとりいれながら授業を進めてゆく。 授業の方法は実際に歌をうたったり、音楽療法のビデオを観たり、あそびを考案するなど実践的に行っていく。 またもう一つの目標として（時間があれば）施設で活用出来る「大正琴」の初歩を身に付けることを考えている。</p>	
<p>[テキスト]</p> <p>「キラッと歌って」秋山治子 高林真理 共著 共同音楽出版社</p> <p>[参考書]</p> <p>高齢者の音楽療法：貫 行子 音楽之友社</p>	
<p style="text-align: center;">授業計画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 音楽療法のビデオを観て皆で感想などを出し合う。 授業の概要を説明する。 2 高齢者に人気の“昔の歌”をうたう（CDに収録されている曲がある時はそれを聴いてイメージなどを出し合いながらすすめていく） 大正琴の初歩を学ぶ。（数字による楽譜でだれでもすぐ理解できます） 3 同上 4 同上 5 同上 6 同上 7 全員で分担して高齢者にとって無理のない“音楽を使った遊びとゲーム”を考え実践してみる。 	
<p>[評価方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業にたいする取組み方、出席 2 授業中に行う小テストとレポート 	

【授業科目】 シニアの音楽とダンス	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>リズムカルに身体を動かしたり、身体で表現する活動を通して、踊る楽しさや表現する喜びを体験し、表現力を高め、その文化的価値を認識する。また、楽しいダンスの援助の方法を探求する。</p>	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>(1) 身体で表現することの意味と意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で見られる身体表現とダンス ・ダンスの特性と意義 <p>(2) ダンスの内容、技術の習得を通して踊る楽しさ、表現の喜びを味わう</p> <p>①リズムカルに身体を動かすことを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの体操やストレッチ ・フォークダンス ・社交ダンス ・音楽によってリズムカルに全身を動かす <p>②歌いながらリズムカルに表現力豊かに動くことを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手遊び ・歌を伴った遊び <p>(3) ダンスの楽しい援助の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共に身体を動かし楽しむ ・あるがままを受けとめ気持ちを共有する ・豊かな感性、創造的な援助 	
<p>【評価方法】</p> <p>1 授業に対する取組み方、出席</p> <p>2 授業中に行う実技試験と平常点</p>	

教養教育科目（2年）

【授業科目】 文学・フィクションと人間	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>小説・映画・ドラマの中の世界は、どこにあるのか。それは我々の住んでいる「この現実」とは別の、「もう一つの別世界」である。この「別世界」の構造（しくみ）を考え、「芸術・フィクション」の秘密に迫るのが目標である。</p>	
【テキスト】 随時プリントを配布する。	
【参考書】 講義中に紹介する。	
授 業 計 画	
<p>おおむね、以下のような流れで講義する。具体的作品等はプリントを使って紹介する。</p> <p>①「フィクション」について。</p> <p>例えば「小説」に書かれたことは、要するに全て「作り事」、つまり「嘘」である。映画もテレビドラマも同様である。しかしなぜ、我々はそんな「嘘」に感動したり、強い影響を受けたりするのか。——このような問題を考察する。</p> <p>②「作品世界」の構造（しくみ）について。</p> <p>「作品世界」つまり「もう一つの別世界」は、どのような「仕組み」で出来ているのか。そもそも、それは誰が「見ている」世界なのか。語っているのは「誰」なのか。少なくともそれは、いわゆる「作者」ではないはずである（例えば川端康成は「駒子」を「見る」ことは出来ない）。——このような問題から考察を始める。</p> <p>③フィクションと「現実」について。</p> <p>小説・映画・ドラマは「現実ではない」というが、では「現実」とは何なのか。何が「フィクション」で、何が「フィクション」ではないのか、の問題を考察する。</p> <p>○日本とヨーロッパの近代文学作品を中心に、美術・音楽も視野に入れた講義になる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験（ノート・プリント等、何でも参照可）。講義に基づいて書く形式。</p> <p>講義を良く聴いて、しっかりノートをとっておくこと。</p> <p>出席点を加味して、総合的に評価する。</p>	

【授業科目】 王朝文学の世界	【担当者】 久保木寿子
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>日本の古典の多くが、受験文法の説明に使われるのみで、内容が知られないのは残念なことです。優れた古典は作品としての主張を持っており、現代に通じるものを必ず持っています。そのおもしろさに気づくことが、第一の目標です。そして、何が、何故おもしろいのかを検討し、文学の本質について考えたいと思います。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>岩波文庫『竹取物語』</p>	
<p>【参考書】</p> <p>随時、指示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>平安時代の『竹取物語』を取り上げます。姫はなぜ竹の中にいたのか。翁はどんな子育てをしたのか。で、姫は人間になったのか。なぜ月から追放され、よりによって人間界に来たのか。天皇を含む求婚者は、なぜ皆拒絶されたのか。知っているつもの物語は、実は謎がいっぱい。</p> <p>I 『竹取物語』の構成と主題について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな口承の話型（化生説話、致富説話、難題婚説話、羽衣説話、地名起源説話）を組み合わせて、物語は、書くことによって、ある主題を追求していくようです。上記の疑問を解明しながら、物語のおもしろさについて考えます。 <p>II さまざまな竹取説話を知る</p> <p>『竹取物語』以外にも、様々な竹取説話が伝わっています。今昔物語、海道記、古今集注、奈良絵本、現代の絵本などから、関係の部分を見ていき、平安『竹取物語』の特徴について、あらためて考えたいと思います。</p> <p>III 参考：＜浦島太郎＞の異界について</p> <p>古く『万葉集』『風土記』などに見える話が、平安時代の漢文作品を経て、やがて謡曲や御伽草子に取られていきます。もう一つの異界（海神の国）の話を覗いてみましょう。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席重視。授業時のワンポイント・メモ、定期試験時のレポートによる。</p>	

【授業科目】 話し言葉の文芸	【担当者】 東 喜望
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>将来に資するために、口承文芸をとりあげます。 初めに、口承文芸（昔話・伝説・神話など）を概観し、日本の代表的な話をとりあげながら、その話の淵源をたずねていきます。 大陸や環太平洋諸地域との関連も積極的に考究していく予定です。</p>	
<p>【テキスト】拙著『沖繩・奄美の説話と伝承』（おうふう・刊） （他に資料プリントを配り布。スライド・ビデオ等映像資料上映）</p>	
<p>【参考書】適宜指示する。</p>	
授 業 計 画	
<p><u>講義の概要</u></p> <p>I. 序（導入）—「ゆが国をニッポンというのはなぜか。」・国号と環太平洋の太陽神話</p> <p>II. 口承文芸概説</p> <p>(1) 神話</p> <p>(2) 伝説</p> <p>(3) 昔話</p> <p>III. 文芸の起源</p> <p>(1) 自然と人間の意識と神観念</p> <p>(2) 「謡い」と「語り」の発生</p> <p>(3) 信仰と説話—個人レベルから国家レベルへ</p> <p>(4) 神話の発展—伝説・昔話へ。</p> <p>IV. 口承文芸の現代的意義</p>	
<p>【評価方法】定期試験時の筆記試験。ただし、テキスト・ノート等参照可とする。</p>	

【授業科目】 西洋文学	【担当者】 衣川清子
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】 最近、映画化される西洋文学作品が多いのは良質のストーリーを求めると優れた文学作品に行き着くためと、優れた文学作品が時代をこえて生き残るためであろう。一方、現代の視点と問題意識で作られた映画は、文学作品に新しい解釈をもたらすことがある。また映画化のたびに違った相貌を見せる作品もある。本講義では、比較的最近、映画化・公開された西洋文学作品を取り上げ、小説と映画との違いに着目しながら小説と映画それぞれの魅力を探る。</p>	
<p>【テキスト】 なし（プリント使用）</p>	
<p>【参考書】 必要に応じて授業中に紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>毎回一つの文学作品とそれを映画化した作品を取り上げて講義し、映画の一部を視聴し、時代を経ても色褪せない文学の魅力のありかを考えたい。</p> <p>取り上げる予定の作品：</p> <p>ウィリアム・シェイクスピア『ロミオとジュリエット』（1595年）；同映画(1968年及び1996年)</p> <p>ジェイン・オースティン『いつか晴れた日に』（1811年）；同映画(1995年)</p> <p>シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』（1847年）；同映画(1944年及び1996年)</p> <p>ナサニエル・ホーソーン『スカーレット・レター』（1850年）；同映画（1995年）</p> <p>ルイザ・メイ・オルコット『若草物語』（1868年及び1869年）；同映画(1933年、1949年及び1994年)</p> <p>ルーシー・モード・モンゴメリ『赤毛のアン』（1908年）；同映画（1985年）</p> <p>マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』（1936年）；同映画(1939年；リマスター版公開1998年)</p> <p>アリス・ウォーカー『カラーパープル』（1982年）；同映画(1985年)</p> <p>エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』（1988年）；同映画(1993年)</p> <p>ほか</p> <p>*作品は変更する場合がある。</p>	
<p>【評価方法】 平常点とレポート。</p>	

【授業科目】 近代日本の歴史	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>日本の近代の幕開けは開国から始まった。海からのプレッシャーがどのように日本の近代を開いたか。江戸時代が終わりをつげ、新たに明治が始まる時、何が大きく変化したのか。それは維新の変革と呼ばれるものの中身を問うことでもあり、また、そこから始まる近代日本の特質を捉えることでもある。政治の表舞台だけでなく、激動の中で行動し主張する人々の姿にも目を向けてみよう。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に定めない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>多数あるのでその都度紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>幕末の社会の動きを追うことからはじめ、開国を経て維新政府の成立、明治新政の開始頃までを時間の流れに沿って話して行きたい。この時代についての予備知識は必要としない。以下のようなテーマで、できるだけかみ砕いて話をしたい。</p> <p>△大塩平八郎は何を訴えたか ▲水野忠邦の改革はなぜ失敗したか △ペリーはなぜ日本を訪れたか ▲井伊直弼はなぜ開国に踏切り、そしてなぜ暗殺されたか △皇女和宮はなぜ降嫁したか ▲新選組は何を守ろうとしたか △世直し一揆と「ええじゃないか」は何を求めたか ▲議会制をも構想した坂本龍馬のプランとは △大政奉還を決意した徳川慶喜の思惑は ▲西郷、大久保、木戸はなぜ武力倒幕に踏み切ったか △維新政府はなぜ「富国強兵」をめざしたか ▲征韓はなぜ唱えられ、そして挫折したか △大久保が選んだ「内治優先」とは ▲自由民権の思想は何をめざしたか △なぜ軍拡と対外膨張の近代か</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す</p>	

【授業科目】 西洋史概説	【担当者】 深川美奈
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】 西洋世界の歴史事象に関する基礎的知識の習得を目的とする。</p>	
<p>【テキスト】 松村尙、西川正雄、山口定、『地域からの世界史<14> 西ヨーロッパ<下>』、 (朝日新聞社、1993年)</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>フランス革命以降の西洋世界の成り立ちから戦後世界に至るまでを、いくつかのテーマに即して概説する。その際、第二次世界大戦後のヨーロッパ復興を民衆の視点から考察することをテーマの一つとして考えている。その他のテーマについては開講時に説明する。 参考書は、適宜紹介する。</p>	
<p>【評価方法】 試験、出席で総合評価する。</p>	

【授業科目】 東洋美術	【担当者】 鈴木 泉
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>東洋美術の中核は仏教美術であり、その仏教美術を知るための基本的存在が仏像彫刻と言って差し支えない。本授業では、この仏像彫刻の歴史的な展開を、東洋の端に位置する日本を例に概観し、東洋美術の一面を垣間見ることとする。そこから、美術作品を見る眼、さらには美術分野に関する教養・知識の幅を広げることが狙いではあるが、なにより受講者諸君には、仏像を通して美術鑑賞の面白さを知ってもらいたいと考えている。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは用いず、適宜プリント資料を配布する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>参考文献等は必要に応じて授業中に紹介して行く。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>紀元前6世紀頃、釈迦によってインドに誕生した仏教は、紀元1世紀頃、礼拝対象としての仏教尊像すなわち仏像を造り出した。やがて、仏教の広まりとともに仏像もアジア各地に伝わり、それぞれの国・地域でその表情や姿を変えて行くのである。</p> <p>通例「東洋」とは、インド以東、主に東南アジア諸国・中国・朝鮮・日本を指す語といっ てよい。しかし、その範囲は広く、各地域で文化の様相が異なり、美術様式も一様では ないため、必然的に地域・内容を絞らざるを得ない。</p> <p>今年度も、我々にもっとも身近な日本の仏像彫刻に焦点を当て、その様式の古代から中 世にかけての変遷について概観する（余裕があれば鎌倉時代以降の流れについても言及し たいと考えている）。日本の美術は、常に大陸、とりわけ中国・朝鮮半島の強い影響を受 けて進展を遂げており、彫刻も例外ではない。そこで、本授業においてもこの点を十分に 踏まえ、随時中国・朝鮮半島等の仏像を比較参照の意味で紹介して行きたいと思っ ている。</p> <p>授業はおおよそ以下の順序（前後することもある）・内容を予定している。一つのテー マを1～3回の講義でまとめて行くつもりである（授業回数都合により一部変更する場 合あり／ほぼ毎回スライドを使用する予定）。</p> <p>I. 仏像の見方</p> <p>① 仏像の種類・かたち ② 仏像の材質・構造</p> <p>II. 仏像の誕生とその伝播</p> <p>③ インドから中国・朝鮮半島への流れと日本への伝播</p> <p>III. 日本における仏像様式の展開</p> <p>④ 飛鳥時代の彫刻～《仏教伝来・渡来仏・止利仏師・止利様式と非止利様式・法 隆寺の諸像》</p> <p>⑤ 白鳳時代の彫刻～《小金銅仏・当麻寺の諸像・旧山田寺仏頭・童顔童子形像》</p> <p>⑥ 天平時代の彫刻～《法隆寺塔本塑像・薬師寺、興福寺、東大寺、唐招提寺の諸 像・写実表現の完成》</p> <p>⑦ 平安時代の彫刻～《唐招提寺木彫像群・密教尊像・一木造像・大仏師定朝と定 朝様式・和様化・寄木造像》</p> <p>⑧ 鎌倉時代の彫刻～《運慶、快慶と慶派仏師・宋風彫刻・新たな写実表現》</p> <p>IV. 総括</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>① 平常点（出席状況＝2/3以上の出席が原則・受講態度等） ② レポート（1回） ③ 定期試験（筆記）</p> <p>以上を総合して判断する。詳細はあらためて授業中に説明する。</p>	

【授業科目名】 演劇論	【担当者】 高橋秀雄			
【開講期】 2年 前期				
【授業目標】 “人生は劇場なり”という言葉があり、また、演劇は宗教儀礼から起しているという説があるように、演劇は古くから生活の中の文化として成立し、多様な展開をみせてきた。この演劇の展開の歴史を辿り、演劇について考察を試み、とくに西洋と東洋、さらには日本との比較の中で演劇の特質を探究する。				
【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書：各種演劇関係書（その都度指示する）				
授 業 計 画				
<p>洋の東西における演劇の特色を明らかにするとともに、演劇の構成要素である演出・演技・舞台美術・照明・音響・衣裳などの演劇の基礎的表現を分析し、さらには、西欧の諸演劇と日本の演劇を比較することによって、その多様性と特徴を理解する。各テーマについては、1回または数回の講義となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宗教儀礼と演劇 2. 悲劇と喜劇 3. 能と「花伝書」 4. リアリズム演劇とスタニスラフスキー・システム 5. 歌舞伎と「虚実皮膜論」 6. 歌舞伎と新劇 7. オペラとミュージカル 8. 比較演劇論 9. 現代と演劇 				
【評価方法】 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 期末のレポート 2. 授業時の小レポート 3. 授業時の平常点 </td> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle; padding: 0 10px;">}</td> <td style="vertical-align: middle;">左記3項による総合評価</td> </tr> </table>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末のレポート 2. 授業時の小レポート 3. 授業時の平常点 	}	左記3項による総合評価
<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末のレポート 2. 授業時の小レポート 3. 授業時の平常点 	}	左記3項による総合評価		

【授業科目】 現代社会論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>私たちが生活している今の社会はいろいろな側面から捉えていくことができる。 本講では、「文化」を主たるテーマにして、現代社会を論じてみることにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業中に適宜指示する</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「文化」のさまざまな定義 2. 人間にとって「文化」がもつ意味 3. 「文化」への参加のいくつかの段階 4. 「文化」の発生から消滅までの図式 5. 「文化」の諸相 (1) 子どもの「文化」 6. 同上 (2) 若者の「文化」 7. 同上 (3) おとなの「文化」 8. 同上 (4) 高齢者の「文化」 9. 生活の節・年中行事としての「文化」 	
<p>【評価方法】</p> <p>ペーパーテスト（ノート等持ち込み不可）</p>	

【授業科目名】 現代家族論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 2 年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>人類の歴史と共に古い、といわれる家族。この家族は今日の社会において私達の生活とどうつながりをもっているか。今日、いろいろな角度から家族がテーマとされるが、本講では「福祉」の視点から考えてみる。福祉すなわち「人間としての幸せ」は家族とどうかかわっているか、が主たるテーマとなる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>望月 嵩、木村 汎共編 『現代家族の福祉－家族問題への対応』 培風館</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. 人間にとって家族とは何か</p> <p>2. 家族のはたらき</p> <p>3. 家族のタイプ</p> <p>4. 家族のしくみ</p> <p>5. 家族と福祉</p> <p>6. まとめ</p>	<p>－ 家族は人類の歴史と共に古い集団といわれる。つまりわれわれ人間にとって家族は必須のものであったし、今後もそうであろう。人間が生きることとの関わりで「家族」の定義をする。本講では家族を「福祉追求の集団」とする。</p> <p>－ 家族は基礎的集団といわれ、いろいろなはたらき（機能）を同時併行的にもつ。しかし今日の社会では、すべての機能が一律に求められているとは限らない。家族がもつどのような機能に注目すればよいか考える。</p> <p>－ 家族という集団を形成し、それを拠点として生活するとき、そこにはさまざまな家族のタイプが生ずる。また社会全体がもつきまりやルール（規範）によって家族のあり方も規制される。どのような家蔵のタイプが望ましいか、考える。</p> <p>－ 家族がもつ目標を達成するためにはそのしくみ（構造）が問題となる。役割構造と権威構造との2面から検討する。</p> <p>－ 家族は福祉追求の集団であるとするとき、そこにはいくつかの課題が生ずる。</p> <p>(1) 子どもの養育と家族福祉</p> <p>(2) 母子家庭、父子家庭と家族福祉</p> <p>(3) 高齢化社会における家族福祉</p> <p>－ 今後、家族を形成するものとして、望ましい家族福祉の姿を考えてみる。</p>
<p>【評価方法】</p> <p>ペーパーテストを期末に実施</p>	

【授業科目】 日本国憲法	【担当者】 松田 浩
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、日本国憲法の仕組みと働きの大枠を理解することを目標にします。みなさんがこれから市民として、職業人として生活していくうえで、最低限必要な憲法や法についての基本的な考え方を、この授業を通じて身につけて下さい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>無</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>さしあたり、芦部信喜『憲法』（岩波書店）。「面白い本」ではありませんが、日本国憲法についてのスタンダードな知識を得たい方は手にするといいでしょう。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1、日本国憲法とは何か 2、日本国憲法の基本原則 3、国民主権・天皇制 4、平和主義 5、基本的人権総論 6、精神的自由権 7、経済的自由権 8、人身の自由・国務請求権・参政権 9、社会権 10、統治機構総論・国会 11、内閣・財政・地方自治 12、裁判所・違憲審査制 13、憲法改正 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（出席）と期末試験で評価</p>	

【授業科目】 市民生活と法	【担当者】 武藤健一
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年半後に、主に女性である皆さんが実際に社会に出ていって、自分が女性であることから遭遇するかもしれない事柄・問題について検討し、自分の今後のこと・将来のことを考えるきっかけを得られるようにすることを目的とします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは用いません（レジュメ配布）。</p>	
<p>【参考書】 伊田 広行 「シングル単位の社会論」（98年 世界思想社）を読むことを強く勧めておきます。</p>	
授 業 計 画	
<p>現代の日本社会では女性がどのような状況におかれているかを、女性労働と恋愛・結婚、という2本の柱を立てて、様々な統計的資料やその分野に関わる法律の内容を検討します（たまにビデオをみることもあります）。</p> <p>具体的には労働では、① M字型雇用 ② 総合職・一般職 ③ セクシュアル=ハラスメント ④ 派遣労働 ⑤ 育児・介助休暇 ⑥ パート労働 ⑦ 性別職務分離・男女賃金格差 ⑧ 男女雇用機会均等法・労働基準法 ⑨ 就職・転職、の9項目を、</p> <p>恋愛・結婚では、① 恋愛観・結婚観 ② 結婚 ③ 家事 ④ 育児 ⑤ 夫・恋人の暴力(DV) ⑥ 子どもの虐待 ⑦ 離婚、の7項目を予定しています。</p> <p>注 意 点</p> <p>1) 一方的なつまらない授業にはしたくないので、学生の皆さんの積極的な授業参加を願っています。</p> <p>2) 飲食などの、授業や他の人の迷惑にならない事は、自由にしてもらって構いませんが、おしゃべりなどは絶対的に許されません。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学年末に簡単な筆記試験を行ない、その評価をもとに授業の出席点（・レポート点）を加味して評価を下します。</p>	

【授業科目】 政治学入門	【担当者】 梅田 欽治
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>主権者の一人として、日本と世界の政治に関心を持ち、自立した自分の意見をもてるようになること。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業のなかで資料を配付し、それをテキストにします。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>必要に応じて授業のなかで紹介します。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>「政治なんて嫌い」「政治は私には関係ない」「政治は難しくて、わからない」などという人がいるかもしれません。本当にそうなのだろうか。</p> <p>実は、政治はドラマのように面白いのです。しかも私たちの生活に直接、関係しています。どうして、いまの日本の政治に怒らないのか、憤らないのか。</p> <p>どうして、あきらめているのか。このままで、私たちの未来はどうなるのだろうか。</p> <p>こういうことを知りたい人は、この授業を受けたらよい。</p> <p>毎回、なにか新しい発見があるでしょう。</p> <p>いよいよ新しい世紀、21世紀が幕を明けました。この21世紀はどのような時代になるのか、どのような時代を創ることができるのか、そのヒントは20世紀の歴史のなかにあるのです。20世紀の歴史のなかで、政治について考えることにしましょう。</p> <p>戦争と平和、人権・環境…大きな課題があります。</p> <p>そして、それらの根底には「国家と個人」「個の自立」という問題があるのです。</p> <p>私たちは日本国の主権者です。私たちが政治を動かすのです。日本を創るのです。政治学入門は、そのために学ぶのです。入門だから、気楽に受講しなさい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況、受講態度と試験の結果で評価します。</p>	

【授業科目】 生活の経済学	【担当者】 高橋美保
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>人間はすべて、さまざまな欲求を充たしながら生活している。その欲求の対象は物質的なものだけでなく、精神的なものも含まれている。したがって生活経済論はいろいろの側面をもっている。授業では、現代の日本社会の中の人々の暮らしを市場経済的側面からとらえるだけでなく、経済外的な側面も考察し、総合的に現代の生活経済の基本的な知識を習得するようにしたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しない。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業の中で、適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>次のような編成で、講義を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族形態の多様化と家計 2. 国民経済の中の家計 3. 税金と社会保障費の負担 4. 収入と収入構造の変化 5. 支出と支出構造の変化 6. 家計の貯蓄と負債 7. 環境に優しい家計 8. 医療制度の現状 9. 社会保障制度の現状 10. 余暇生活 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への出席状況とレポートによって評価する。</p>	

授業科目 心理学入門	担当者 林 潔
開講時期 2年後期	
授業目標 性格理解と社会的関係における人間理解	
テキスト なし 参考書 随時紹介します。	
授 業 計 画	
<p>さまざまなタイプの人があります。 同じ事柄についても受け止め方がさまざまです。 どうしてなのでしょう。</p> <p>1. 行動について心理学はどのように考えているか。 経験を重視する（学習理論） ものの見方や考え方を重視する（認知論） 過去、特に幼児期の体験を重視する（精神分析）</p> <p>2. 性格について考える ここでは今日の性格についてのいくつかの基本的な見方 について紹介します。</p> <p>3. 人間関係について考える 人間の悩みは人間関係の悩みだともいわれています。 ともすればやっかいな人間関係、その特徴と、いくつか の対処法について紹介します。</p>	
評価方法 平常点、指定図書レポート、中間試験、期末レポート で評価します。	

【授業科目】 マスコミュニケーション概論	【担当者】 瀬木博道		
【開講期】 2年 後期			
<p>【授業目標】</p> <p>現代はマスコミ支配の時代ともいえる。このマスコミを初歩から説き起こし、マスコミ現象が社会に及ぼす影響について考えられるようにしたい。言論の自由の基礎になる「知る権利」を重点に学ぶと同時に、社会で実際に必要となる広告、広報の理論と実際もさぐって行きたい。</p>			
<p>【テキスト】</p> <p>瀬木博道ほか共著 「コミュニケーションするPR」電通</p>			
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>瀬木博道ほか共著 「広報の基礎Ⅰ」日経広告研究所</p>			
授 業 計 画			
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. マスコミの理論 (上) 2. 同 (下) 3. マスコミの実際 4. ジャーナリズムの理念 5. 日本と欧米のジャーナリズム 6. メディアとしてのテレビの長所、限界 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 7. 言論の自由と知る権利 (上) 8. 同 (下) 9. 広報概論 10. パブリシティとは 11. 国際広告 12. 記者クラブの問題 13. 広告の概念 </td> </tr> </table>		1. マスコミの理論 (上) 2. 同 (下) 3. マスコミの実際 4. ジャーナリズムの理念 5. 日本と欧米のジャーナリズム 6. メディアとしてのテレビの長所、限界	7. 言論の自由と知る権利 (上) 8. 同 (下) 9. 広報概論 10. パブリシティとは 11. 国際広告 12. 記者クラブの問題 13. 広告の概念
1. マスコミの理論 (上) 2. 同 (下) 3. マスコミの実際 4. ジャーナリズムの理念 5. 日本と欧米のジャーナリズム 6. メディアとしてのテレビの長所、限界	7. 言論の自由と知る権利 (上) 8. 同 (下) 9. 広報概論 10. パブリシティとは 11. 国際広告 12. 記者クラブの問題 13. 広告の概念		
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況、受講態度を参考にして、学期末の筆記試験で決める。</p>			

【授業科目】 現代社会と女性	【担当者】 富永静枝
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>男女共同参画社会に向けて、伝統的な性別役割分業を見直し、21 世紀に生きる男女の望ましい在り方や生き方を探る。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>講義資料（プリント）は随時必要に応じて配布する</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>「男女は平等になっていますか」と聞かれたらあなたはなんと答えますか。家族や女性を取り巻く社会的状況が大きく変化し、男女共同参画社会に向けて、男女雇用機会均等法の改正や介護・育児休業法の実施など法的整備は整えられつつあります。しかし本当に男女は平等になっているのでしょうか。不況下での女子学生の就職は厳しく、結婚後も家事・育児と職業の両立に悩むなど、女性が能力を發揮して、一人の人間として自立して主体的に生きることはまだまだ困難な状況にあります。一方男性も厳しい労働環境の中で豊かな家族関係を築くことが難しい状況におかれています。そこでこの授業では人生のパートナーである男性と女性が、ともに人間らしく豊かに生きるためにはどうしたら良いか、これからの望ましい男女のあり方や、社会システムのあり方について学びます。授業方法は講義だけでなく、ビデオや新聞記事情報なども活用し、意見発表や討論なども加えて行います。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、女性のライフサイクルの変化 2、女性を取り巻く社会的状況 3、性別役割分業とその問題点 4、女性と職業 5、少子・高齢社会と女性 6、女性と人権 7、男女平等をめざす世界の運動と日本の動き 	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末試験、平常時の提出物、出席状況の総合評価</p>	

【授業科目】 自然科学史

【担当者】 柳下登

【開講期】 2年 後期

【授業目標】 人間は自然を理解する（科学する）ことで自己を変革し、より人間らしくなった。科学の歴史はヒトから人間化への歴史である。人間は古代から生命、広くは生物的自然に強い関心を持ち、それについての理解は紆余曲折を経て科学の姿を整えてきた。この講義ではそれぞれの時代の自然についての理解がより科学的な考えにとってかわった過程を概観することにした。そして、各論として生命の正体の追求とその成果による生命操作を考察し、最後に 21 世紀の科学・技術と人間、社会の課題についても言及したい。

【テキスト】 プリントを中心におこなう予定。

【参考書】

新編自然科学入門（甲斐義幸）学術図書、科学思想のあゆみ（Ch. サンガー）岩波書店、科学の考え方・学び方（池内 了）岩波ジュニア新書、近代科学の歩み（H. バターフィールド）岩波新書、遺伝子組換え作物に未来はあるか（柳下登ら）本の泉社 世界のたね（E. ニュート）NHK 出版

授 業 計 画

1) 自然科学史

a. 自然とは b. 自然科学とは c. 歴史科学とは

2) 科学を成立させた人間の条件

a. 森の生活者サル類がヒトをつくる b. 「木から落ちたサル」のサルばなれへの道
c. 四本足から二本足へ d. 道具が人間をつくる e. 生きること（生活）が自然についての理解を深める f. 道具で道具をつくる g. 定住と農耕 h. 技術が先か科学が先か

3) 古代のエジプトとギリシアでの「科学」の起こりと近代科学の成立

a. ナイル河の知的贈り物 b. 自然を見つめた人びと c. 諸学の根源—アリストテレス
d. アリストテレスに別れをとげニュートンへの道

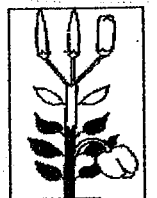
4) 生き物の正体を求めて

a. アリストテレスの自然のはしご b. ヘルモントラの自然発生説 v s パスツールの実験
c. 細胞（生命）あるものから細胞（生命）へ d. ラマルク：生物は段々と複雑になった
e. ダーウィン：生物は共通の祖先から f. オパーリの生命の起源と自然発生」説の復活
g. メンデルの遺伝の粒子説 h. ワトソン・クリックのDNAの2重らせん
i. バイオテクノロジー（遺伝子組換え、クローン、ゲノム解析）の確立

5) 21 世紀の科学技術と人間、社会の課題

a. 市民参加による共通理解と合意形成

6) 私の研究史：ピートン物語



【評価方法】 定期試験にかわる課題レポート。その他、希望によって、自発的なテーマの設定による科学博物館見学、自然科学関係図書読書などについてのレポートも評価に加える。

【授業科目】 生命の科学	【担当者】 小作明則
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>21世紀を迎えた今、「生命」に対する考え方は大きく変貌しつつあります。この変貌を支える「生物学・医学」で扱う「生命の成立過程」について地球物理学、化学、進化生物学そして歴史学的な面から理解を深めることで今後、人類が個人レベルで判断・選択を迫られる「生命」というものについて考えてみたいと思います。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキスト・参考書は特に指定しない。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>この講義では授業目標に掲げた内容を理解するために、おおよそ以下の各時間ごとのテーマに従って講義を進めていく。この講義は講義室での説明・板書だけが目的ではなく、できる限り実物を自分の眼で見、手で触り、バーチャルではなく五感を持って理解することを目的としたい。</p> <p>以下に時間ごとのおおよその講義タイトルを示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 太陽系と地球の誕生、物質の由来 2. 地球と水と生命誕生 3. 地球型生物の特徴と進化 4. 分子生物学と進化 5. 植物と動物の分化と進化 6. 生物の存在と地球環境の変化 7. 脊椎動物の進化 8. 生殖方法の変化と動物進化 9. サルとヒト <p>以上を講義として行い、これ以外に博物館、水族館、動物園等さらに玉川上水の散歩等実物を見ながら生命について考えていこうと考えている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートあるいは筆記試験</p>	

【授業科目】 生物と環境	【担当者】 吉川研二
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】 地球上に生命が誕生したのは20数億年前という。以来、地球生態系は多種多様な生物によって脈々と維持され続けてきた。この生態系にヒトという種が加わったのはわずか数百万年前のことである。当初、ヒトは多くの生物たちと共存してきた。しかしこの一世紀ほどの間に多様な生物の世界は急激に失われつつある。その最大の原因は人間による生物の生息環境の汚染や破壊、資源の乱獲などである。多くの種の消滅は生態系の単純化につながり、ヒトの生存も危うくなる。ヒトと生物とその生存環境を考える。</p>	
<p>【テキスト】 OUR STOLEN FUTURE 邦訳『奪われし未来』 1997. 9 翔泳社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>海洋生物学者の Rachel L. Carson は『Silent spring』の中で合成殺虫剤が自然界にもたらす危険性について警告した。40年近くたった今また、環境ホルモンという合成化学物質が生物の世界に影響し始めた。40年前の警告によって人類はどれだけ賢くなったのだろうか？</p> <p>授業では基礎的な科学の素養が必要。今までの勉強で得た幅広い知識を生かして臨んでください。</p> <p>自然科学の世界 単位について 環境とは 生物の世界 生態系、その構造と機能 天然化学物質と合成化学物質 沈黙の春 環境汚染 内分泌かく乱物質 奪われし未来</p>	
<p>【評価方法】 平常点＋筆記試験</p>	

【授業科目】 生活の科学	【担当者】 滝沢靖臣
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】 現代における私たちの生活の進展は大きく、衣食住ならびに医薬品からコンピュータまで様々な物質に取り囲まれている。これらの物質を構成している原子や分子の世界に目を向けて、それらの特性を学ぶことにより、身近に起こっている科学的な現象を少しでも正しく理解できるようになることを本授業の主眼としている。</p>	
<p>【テキスト】 「物質とは何か」-化学の基礎- 東京教学社</p>	
<p>----- 【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>物質の成り立ちを理解してから、それらの物質を通して私たちの身の回りの科学的な現象が理解できるようにする。特に基礎知識がなくても授業を受けることで理解できるように平易に解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の中の物質科学を考えてみよう。 2. 身の回りにある水分子の世界を覗いてみよう。 3. 原子と分子と私たちの生活。 4. 原子はどのような構造をもっているのだろうか。 5. 物質をつくっている分子の構造は何により決まるのだろうか。 6. 物質の状態は何により決まるのだろうか。 7. 金属と超伝導とはどのような関係にあるのだろうか。 8. 酸はなぜ酸っぱく感じられるのだろうか。 9. アルコールの正体は何であろうか。 10. 日焼けと日焼け止めと光化学反応。 11. 人や物質の老化は防げるのだろうか。活性酸素の化学。 12. 物質科学とエネルギーを考える。 13. 物質科学から見た衣類、高分子化学の世界をみる。 14. 石油資源と石油化学を考える。 15. 21世紀の物質の世界を考える。 	
<p>【評価方法】 試験、レポート、出欠により評価する。</p>	

【授業科目】 健康の生理学	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 2年 前期	
【授業目標】 1. 健康の概念と健康管理活動の原理の理解 2. 人体各器官の生理機能の理解 3. 疾病予防や健康増進に必要な基本的知識の習得 4. 女性の医学 5. 健康管理の実際（血圧測定・体脂肪率測定）：自己測定を行い健康への関心を高める	
【テキスト】 栄養、健康科学シリーズ 健康管理概論 南江堂	
【参考書】 新・健康管理概論（改訂第2版）医歯薬出版 シンプル 衛生公衆衛生学（改訂第9版）南江堂	
授 業 計 画	
第1回 健康の概念 第2回 疾病予防と健康管理（I-1）：わが国の健康水準と健康増進施策 第3回 疾病予防と健康管理（I-2）：生活習慣病（痛・心疾患・高血圧） 第4回 疾病予防と健康管理（I-3）：生活習慣病（脳血管疾患・糖尿病・高脂血症） 第5回 疾病予防と健康管理（II）：健康管理法 （肥満・運動・ストレスと休養・飲酒・喫煙などの健康への影響） 第6回 健康管理の実際（血圧測定・体脂肪率測定） 第7回 女性の医学（I）（加齢と性機能・月経のしくみとホルモン） 第8回 女性の医学（II）（主な疾患の概要） 第9回 女性の医学（III）（性病・人工妊娠中絶と避妊法） 第10回 学校保健・産業保健 第11回 環境保健・母子保健・地域保健・ 第12回 日常出会う乳幼児疾患 第13回 成人・老人保健 第14回 保健医療制度と法規	
【評価方法】 出席点と筆記試験	

【授業科目】 宇宙と地球	【担当者】 猪郷久義
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>人類は地球史の中では最も新しく出現したにもかかわらず、地球の自然環境を自らの手で改変するまでに至っている。また生命史という観点では、人類の遠い先祖は地球創生期の30数億年前まで溯る事ができる。この授業では宇宙の一員としての悠久の地球史と生命史を通して現在の地球環境を考察する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に定めない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>必要に応じて随時推薦する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 新しい地球観—プレートテクトニクス— 2) 地球の概観—陸地と海洋— 3) 地球の内部を探る 4) 地球の構成物—身近な鉱物と岩石の科学— 5) 防災の科学としての地球科学—地震と火山— 6) 地球環境の変遷と古生物—繁栄と絶滅— 7) 宇宙の中の地球 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と論述形式のテストで評価する</p>	

【授業科目】 総合科目人間	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 2年 前期	
【授業目標】	
<p>【総合科目人間全体について】</p> <p>1年間で3人の教員が担当する総合科目であり、「ヒューマニズムと人間」の考察が大目標である。</p> <p>鍾（前期前半）→栗田（前期後半）→平賀（後期）の順で講義する。</p> <p>【栗田担当分について】 哲学的なアプローチで「人間・ヒューマニズム」を考察する。</p>	
【テキスト】 用いない。必要に応じてプリントを配布する。	
<p>-----</p> <p>【参考書】 必要に応じ、講義中に紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>「ヒューマニズムは間違っている」と言う人は多くないが、では、なぜ「ヒューマニズム」は「正しい」のか。「人間を大切にするのは当たり前だ」では、「自分の思想」にも「学問」にもならない。要するに、「世間的通念」に流されているだけである。「ヒューマニズム」は白梅学園「建学の理念」ともされているが、その「理念」自体も、自由な学問的立場で検証されねばならない。</p> <p>こうした立場から、おおむね、以下の順に講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「根源的に問う」態度について。 ② 「自己」と「世界」 ③ 我々の状況—近代に於ける「人間」の問題 ④ 「近代ヒューマニズム」思想の問題点 ⑤ アイデンティティーと共同体 	
<p>【評価方法】 <u>1年間を通して</u>（3人の教員が各々の担当部分の評価を持ち寄り）<u>全体として成績評価を下す</u>。</p> <p>栗田担当部分の評価は、レポートにより、出席点を加味する。</p> <p>講義を良く聴いて、しっかりノートをとっておくこと。</p>	

【授業科目】 総合科目人間	【担当者】 鍾 家新
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>本講義は中国の事例を中心に、国際比較を通して、①自然に対する人間の意味付与と自然への融和、②人間の拡張欲望、③人間の消費欲望、④人間の欲望を実現・制限する現代国家、について分析する。日本人と中国人の人間像の異同及び現代国家における個人・家族の苦闘を探究する。異文化比較の手法を取り入れる。本講義の受講によって、学生たちは人間、現代国家、外国を相対的に見るための知識と能力を身につける。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>鍾家新著『中国民衆の欲望のゆくえ — 消費の動態と家族の変動』新曜社、1999年。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>講義の中で必要に応じて参考文献を紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">授業ではつぎの諸テーマを取り上げる。</p> <p>I 自然に対する人間の意味付与と自然への融和 ①中国の住宅と日本の住宅との比較 ②「風水」信仰の意味・背景・影響</p> <p>II 人間の拡張欲望 — 家族の日中比較 ①外国人が見る日本の家族構造の特徴 ②中国の家族構造と伝統文化の深さ ③中国の「一人っ子政策」と日本の少子化 ④中国女性の社会的地位と日本女性の社会的地位</p> <p>III 人間の消費欲望 ①中国民衆の消費動態 ②近代化が進む中国民衆と日本民衆との共通点</p> <p>IV 人間と国家 ①人間の欲望を実現する手段とする現代国家 ②人間の欲望を制限する装置とする現代国家</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験（テキスト・ノートなど参照可）と出席状況。</p>	

【授業科目】 総合科目人間	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>前期のヒューマニズムと人権に引き続き平和について考える。平和という言葉の意味するものを含め、その状態にするためにはどのような取り組みが必要か、そしてこれまでその目的のためにどのような積み重ねが行われてきたかを明らかにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特にさだめない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>多数あるのでその都度紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>まず戦争と平和の問題をてがかりに話を進めるが、非戦争状態＝平和とは必ずしも言えないのが現代社会の特徴でもある。そのような非平和的状态を的確に捉えることも課題として重視したい。大きく以下のような柱立てを考えている。</p> <p>△18, 19世紀のヨーロッパイギリス、フランス、ドイツの国民国家形成 ▲帝国主義戦争の時代－現代の地域紛争の原因 △日本の近代化＝遅れた国民国家形成－特異なナショナリズム形成 ▲第2次世界大戦とその後の冷戦 △核時代とゼロサム社会の現実 ▲地域紛争の実相を探る－湾岸の危機、コソボ紛争、東ティモールの現実 △戦争の世紀＝20世紀の克服－国民が国家を超える時 ▲平和思想の歴史から何を学ぶか △日本国憲法、国連の役割と改革、NGOの可能性 ▲飢餓、貧困、差別の実態 △地球市民としての自覚と行動</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す</p>	

【授業科目】 情報処理入門	【担当者】 中村光伴
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>情報化社会において、さまざまな場面でコンピュータ情報処理技能が基礎的な技能となっている。情報処理入門では、コンピュータの基本的操作、電子メール、インターネット上での情報検索、ワープロソフトと表計算ソフトを用いた文書作成を具体的目標に設定し、それぞれの技能を修得することを目的とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを授業内で配布する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>参考文献を授業内で紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>基本的には各授業の前半に学習内容に関する説明を行い、その後、実習形式による操作技能の習得を行う。</p> <p>次の項目について授業を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの仕組みと基本操作 2. タイピング練習とファイル管理 3. 学内ネットワークの仕組みと電子メールについて 4. 電子メールの送受信 5. Web Page の閲覧と情報検索 6. ワードプロソフトによる文書作成（基本操作） 7. ワードプロソフトによる文書作成（表や罫線を用いた文書） 8. ワードプロソフトによる文書作成（図の作成と段組文書作成） 9. 表計算ソフトによる表、グラフ作成（基本操作） 10. 表計算ソフトによる表、グラフ作成（表の作成） 11. 表計算ソフトによる表、グラフ作成（グラフの作成） 12. まとめ（最終課題作成） 	
<p>【評価方法】</p> <p>主に実習形式となるので、出席と課題提出を重視し、評価する。</p>	

【授業科目】 総合英語 I - 1, 2	【担当者】 瀧口 優
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国語としての英語を読む基礎を身につける 2. とりわけ音声として表現できることを重視する 	
<p>【テキスト】</p> <p>必要に応じて指示する</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p> <p>必要に応じて紹介する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の歌を聞き取りながらその内容を理解する。 2. 文法や表現を学び英語としての理解を深める。 3. 音声として歌詞を表現し、自分の内面に定着させる。 4. 英語を表現する楽しみを学ぶ。 <p>*日本の歌も英語で歌われているものがあり、それらについても授業で取り上げてみたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ふだんの学習状況などの平常点（出欠、予習、質問、意見発表など）とレポートで行うことを原則とするが、必要に応じてテストを行う。</p>	

【授業科目】 総合英語 I-1、2	【担当者】 藤田幸世
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>これまで学習してきた『英語』を基礎知識として、さらに自分を表現するための『外国語』としての英語を学習することを目標とします。</p>	
<p>【テキスト】 授業毎にテキストとなるプリントを渡す他、必要におうじて紹介します。</p>	
<p>【参考書】 授業中に必要なときに紹介することにします。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>Q：19歳の女子学生が日本の国外で英語を話す時、どのような英語がふさわしいでしょう。</p> <p>まず、英語はよく国際語と位置付けられますが、その英語とはイギリスの英語のことをさすのでしょうか、それともアメリカの英語？一口に英語といっても一人一人の人がもしかしたら違う「英語」について考えている可能性だってあります。この授業では英語という言葉のさまざまな顔にできるだけ多く接することを目標とします。</p> <p>英語と言語背景の知識と同時に、こんどは英語を実際に使用することを考えてみましょう。十代の女子学生が話す英語はどのようなものが相応しいとされるのでしょうか。例えば、日本語話者の私たちは同じ日本語であっても「子ども」と「大人」の話す言語が同じではないことはすぐにわかりますよね。そうすると、外国語の教科として学習してきた「英語」を女性である十代の学生が話す場合はどのような「英語」がふさわしいと考えられるのでしょうか。その答えは一つではないはず。</p> <p>毎授業ではビデオ、資料を見ながら、語彙の聞き取り、内容についての質問などを行ないます。間違いを恐れず、自分の考えを自信をもって皆のまえで話す努力をしてほしいと期待します。必要なことは随時相談しながら決めてゆくつもりです。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と期末レポートを併せて評価を出します。</p>	

【授業科目】 海外語学研修	【担当者】 中島好伸
【開講期】 2 年 前期 (集中)	
<p>【授業目標】</p> <p>イギリスに約4週間滞在し、生活レベルの英語力を身につけながら、イギリスの文化について学習する。</p>	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>イギリスはリーズ市にあるリーズ・メトロポリタン大学の語学センターで3週間のプログラムに参加する。その間の生活は、ホームステイ。ウィークデイは1日2コマの英語の授業があり、現地の教員が懇切丁寧に指導する。また、世界中から集まる学生達とスポーツやパーティをする機会もあり、英語圏だけではなく、世界を広げることも出きるだろう。週末には、近くにある有名な史跡などを訪ね、イギリスの歴史や文化に親しめる。ロンドン観光を含めて約4週間のイギリス滞在は、英語の見方を変えてくれるかもしれない。</p> <p>出発に向けて、前期に5回、事前指導を行い、パスポートの取得から、渡航手続き、現地での生活の仕方、簡単なサバイバル英会話まで指導します。詳しくは、説明会を行いますので、その場でどうぞ。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>現地での提出物に平常点を加味して評価する。</p>	

【授業科目】 スポーツA (テニス)	【担当者】 池森隆虎
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>主にダブルスのゲームを楽しむための技術、戦術、ルール、マナー等を身につける。 前半は初心者を対象にした基礎的な技術のレッスン、ミニゲームによる応用技術、戦術の獲得へと移行し、なるべく早い段階からゲームを行いルール、マナーの理解を深めたい。 後半はリーグ戦を行い、より高い技術、戦術の習得とテニスの楽しさを体験してほしい。</p>	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>1. オリエンテーションと実習のねらい</p> <p>(1) 実習のねらい、展開、評価などについて</p> <p>(2) 基本用語、基礎技術、ルール等の説明</p> <p>2. 基礎技術、技能の獲得</p> <p>(1) ラケット操作に慣れる、ボールの動きに慣れる</p> <p>(2) ストローク (フォアハンド&バックハンド)</p> <p>サービス (アンダー&オーバー)</p> <p>ボレー (ロー&ハイ)</p> <p>ロビング、スマッシュ等の基礎技術の練習</p> <p>(3) 複合練習と簡易ゲーム</p> <p>3. 講義 (応用技術獲得の手がかりとして)</p> <p>(1) ルール、コートマナー、エチケット及び試合の進め方について</p> <p>(2) ダブルスペアの決定</p> <p>4. ゲーム技術の習得 (主にダブルスゲーム)</p> <p>(1) スポンジボールによるゲーム練習</p> <p>(2) ゲームの実践 (戦術、ポジション、コンビネーション)</p> <p>(3) ゲームの審判法の習得</p> <p>*雨天時には、屋内においてスポンジテニス等を行います。</p> <p>*ラケットは貸し出しますが、持参してもかまいません。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>評価点 (40点)... 実習参加への積極性、協調性、個人技能の向上 (実習初回から終了までの過程における個人の上達度)、ルール、マナーや実習内容の理解度</p> <p>出席点 (60点)... 欠席-10点、遅刻 (15分まで) -5点、早退-5点</p>	

【授業科目】 スポーツ A (ダンス)	【担当者】 松村 朋子
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>・エアロビクスダンス、フォークダンス、ソシアルダンスなど様々なダンスに触れて、運動不足の解消、運動機能の向上をはかるとともに、楽しみながら運動することを第一目的としてほしい。前半は、多様なダンスの基本的な運動を中心とし、後半は、ダンスプログラムの習得・構成・発表を行う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しない。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>使用しない。</p>	
授 業 計 画	
<p>1、ストレッチ からだ全体を使って、自由に運動できるように柔軟性を高める。 普段あまり使わない筋肉を意識的に動かす。</p> <p>2、基本コンビネーション スキップ、ツーステップ、ターンなど基本的な動きを使った短いコンビネーションを習得する。 フォークダンスやソシアルダンスの簡単な動きを覚えて、繰り返しの動きの楽しさを体験し、リズム感を養う。</p> <p>3、ダンスプログラムの習得 コンビネーションを組み合わせて構成されたプログラム（2分程度）の振付を覚える。</p> <p>4、グループでのダンス構成と実演 習得したダンスプログラムをグループで構成して発表する。ビデオ撮影を行い、クラスで鑑賞する。</p> <p>*運動可能な服装・シューズで授業に出席すること。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と授業態度（授業への積極性）を特に重視する。作品発表を実技テストとする。</p>	

【授業科目名】 スポーツ A (バレーボール)	【担当者】 村田 務												
【開講期】 2 年 前期													
<p>【授業目標】</p> <p>バレーボールの技能及び体力の向上をめざすとともに、運動継続への意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的技能及び集団的技能 ・ 技能の程度に応じた練習法 ・ 審判法及び指導法 													
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 西川順之助 :バレーボール、成美堂、1995年。 日本バレーボール協会：バレーボールルールブック、2001年度版。</p>													
授 業 計 画													
<p>科学技術の進歩や経済の成長、社会構造の変化に伴い、運動の不足や食行動の偏り、精神的ストレスの増加など、健康に悪影響を及ぼす様々な問題が生じている。このような状況の中で、注目されているのが生涯体育（運動及びスポーツ）である。適切な身体活動は、疾病の予防や健康増進に寄与するだけでなく、生き甲斐や自己の確立など質的な生活の向上を可能にする。バレーボールは、場所や設備、体力的側面からみて、比較的容易に継続して活動することが可能なスポーツである。</p> <p>授業では、これらの観点から、将来にわたってバレーボール運動が継続できるように、「楽しい授業」、「技術の向上がわかる授業」、「自ら創り出す授業」をめざす。</p> <p><u>学習内容</u></p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">① 個人的技能</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ パスとトス ・ サーブとレシーブ ・ スパイクとブロッキング </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">② 集団的技能</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 攻めと守りのフォーメーション ・ トスゲーム、3段攻撃ゲーム、ルールづくり </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">③ 指導技術</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術指導法 ・ 体力トレーニング法 ・ 審判法 </td> </tr> </table> <p><u>授業の流れ</u></p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">① 全体活動</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通課題の解決 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">② グループ活動</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班別課題の練習と解決 ・ 指導法、練習法の習得 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">③ ゲーム</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 練習成果の確認 ・ 新しい課題の発見 ・ 審判法の習得 </td> </tr> </table>		① 個人的技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ パスとトス ・ サーブとレシーブ ・ スパイクとブロッキング 	② 集団的技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 攻めと守りのフォーメーション ・ トスゲーム、3段攻撃ゲーム、ルールづくり 	③ 指導技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術指導法 ・ 体力トレーニング法 ・ 審判法 	① 全体活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通課題の解決 	② グループ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班別課題の練習と解決 ・ 指導法、練習法の習得 	③ ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習成果の確認 ・ 新しい課題の発見 ・ 審判法の習得
① 個人的技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ パスとトス ・ サーブとレシーブ ・ スパイクとブロッキング 												
② 集団的技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 攻めと守りのフォーメーション ・ トスゲーム、3段攻撃ゲーム、ルールづくり 												
③ 指導技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術指導法 ・ 体力トレーニング法 ・ 審判法 												
① 全体活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通課題の解決 												
② グループ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班別課題の練習と解決 ・ 指導法、練習法の習得 												
③ ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習成果の確認 ・ 新しい課題の発見 ・ 審判法の習得 												
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験（平常点、実技等）、意欲と活動参加を重視する。</p>													

【授業科目】 スポーツA (バレーボール)	【担当者】 池森隆虎
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>6人制のゲームを楽しめるための技術、戦術、ルール、マナー等を身につける。 前半は初心者を対象にした基礎的な技術のレッスン、ミニゲーム、ソフトバレーボール等による応用技術、戦術の獲得へと移行し、早い段階からゲームを行い、ルール、ポジションの理解を深めたい。後半はリーグ戦を行い、バレーボールの楽しさを体験してほしい。</p>	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>1. オリエンテーションと実習のねらい</p> <p>(1) 実習のねらい、展開、評価などについて</p> <p>(2) 基本用語、基礎技術、ルール等の説明</p> <p>2. 基礎技術、技能の獲得</p> <p>(1) ボールに慣れる、ボールの動きに慣れる</p> <p>(2) 基本動作の練習 レシーブ (オーバー&アンダー)、スパイク、サービス</p> <p>(3) 複合練習と簡易ゲーム</p> <p>3. 講義 (応用技術獲得の手がかりとして)</p> <p>(1) ルール、マナー及び試合の進め方について</p> <p>(2) 戦術、ポジショニングの反省</p> <p>4. ゲーム技術の習得 (6人制)</p> <p>(1) ソフトバレーボールによるゲーム練習</p> <p>(2) ゲームの実践 (戦術、ポジション、コンビネーション)</p> <p>(3) ゲームの審判法の習得</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>評価点 (40点)... 実習参加への積極性、協調性、個人技能の向上 (実習初回から終了までの過程における個人の上達度)、ルール、マナーや実習内容の理解度</p> <p>出席点 (60点)... 欠席-10点、遅刻 (15分まで) -5点、早退-5点</p>	

【授業科目】 スポーツ A (バドミントン)	【担当者】 岡田光弘
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>まったくの初心者でも自分たちだけでゲームができるようになる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に指定しません</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に指定しません</p>	
授 業 計 画	
<p>1. フォアハンド 2. バックハンド 3. サーブ、レシーブ 4. クリア 5. ドライブ 6. ヘアピン 7. スマッシュ</p> <p>以上の技術を ミニゲーム、球出し、打ちあい等によって習得する、</p> <p>シングルス、ダブルスのゲームをおこなう。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席を重視する。技術、知識、態度という観点で評価する。</p>	

【授業科目】 スポーツ A (トランポリン)	【担当者】 松岡山紀子
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツをすることによって運動不足を解消し、体力の保持増進をはかり、精神的ストレスを解放する。 ・ 運動技能と知識の習得。 	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1、トランポリンを行なう前のルール説明 2、トランポリンの移動方法 3、トランポリンの準備と片付け方（組み立てとたたみ方） 4、トランポリンへの上り方、降り方 5、トランポリンに慣れるための練習 6、垂直跳びとジャンプの止め方（チェックバウンス） 7、技能練習 <ul style="list-style-type: none"> ・ かかえ跳び ・ 開脚跳び ・ 閉脚跳び ・ 腰落ち（シートドロップ） ・ ひざ落ち（ニーズドロップ） ・ 手つきひざ落ち（ハンズ アンド ニーズドロップ） ・ 腹落ち（フロントドロップ） ・ 腰落ち—$\frac{1}{2}$捻り—腰落ち（スィブルヒップス） ・ 開脚跳び—腰落ち ・ 前方宙返り—腰落ち 8、連続技の練習 	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平常点（出席と危険もともなうので授業態度重視） ・ 授業中に実技テストを実施する。 	

【授業科目名】 健康科学	【担当者】 村田 務
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>人間性豊かで健康的な生活を確立するために必要な知識と態度、及び諸能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の健康問題と健康に対する考え方について ・健康の成り立ちと、健康が崩される背景と要因について ・健康の設計と処方（健康な生活を営むのにはどのようにすればよいか）について 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 村田務：健康科学入門、2001年版。</p> <p>参考書 宇土正彦・正木健雄監修：青年の健康と運動、現代教育社、1995年。 国立大学等保健管理施設協議会編：学生と健康、南江堂、1996年。他</p>	
授 業 計 画	
<p>人間性豊かで健康的な生活を営むためには、健康問題の本質を正しく捉え、解決に向けての適切な判断力と実践的な行動能力が必要となる。また、今日の健康問題は、その多くが社会的な環境に大きな影響をうけている。そして、その解決には、人間の生物学的側面はもとより、行動学的側面や環境的側面、保健医療体制的側面を抜きにしては考えられない。</p> <p>授業では、このような健康観に立って行動学的側面を中心に、疾病予防と健康増進の学問としての、健康科学の知見や考え方について解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、健康科学でめざすものの概念 2、今日の健康問題 3、疾病の疫学と健康の成立条件 4、主体・環境と健康との関わり 5、保健行動が健康に与える影響 6、健康を支える保健医療体制 7、健康問題Ⅰ（アレルギー） 8、健康問題Ⅱ（ストレスと精神的健康、ダイオキシンと環境ホルモン） 9、健康問題Ⅲ（生活習慣病：がん、脳卒中、虚血性心疾患、糖尿病、肥満） 10、健康問題Ⅳ（薬害：サリドマイド、スモン、エイズ） 11、健康生活の設計と処方の仕方 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験（2回のペーパーテスト、学習意欲を重視する。）</p>	

【授業科目】 スポーツ科学

【担当者】 岡田光弘

【開講期】 2年 前期

【授業目標】

スポーツを諸科学(物理学,化学,生理学,心理学,社会学^等)
の視角から理解し,さまざまな実践に役立てること

【テキスト】

特に指定しません

【参考書】

特に指定しません

授 業 計 画

スポーツと関わる諸科学

1. 物理学

2. 化学

3. 生理学

4. 工学

5. 心理学

6. 社会学

7. 哲学

ecc.

の知見について,主にビデオ教材を用いて
解説する。

【評価方法】

出席を重視する。授業ごとのレポート,学期末のグループレポートを評価する。

專門教育科目（2年）

【授業科目】 障害児・者福祉論	【担当者】 友田 篤
【開講期】 2年 前期	
【授業目標】 障害者福祉の理念や障害の理解、障害者問題の歴史、福祉サービスの内容などを総括的に学習し、講義だけではなく実践現場の紹介を交えながら、障害児者への援助の理解を深める。	
【テキスト】 障害者福祉論 介護福祉士養成講座 中央法規出版 <hr/> 【参考書】 障害者問題の基礎知識 石渡和実 明石書店	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者福祉の基本的な考え方 2. 障害とは何か。(概念と定義) 3. 障害者の実態と多様な福祉ニーズ 4. 障害者福祉の歴史 5. 施策の体系 6. 障害者への福祉サービスの展開 7. 障害者福祉に関連する分野 8. さまざまな障害者の現状と課題 9. 福祉改革と社会福祉法 10. 社会福祉施設での援助の実際 <p>以上の他、随時内容を調整しながらビデオも活用し授業を進める。</p>	
【評価方法】 ミニレポートを数回実施し、出席状況と授業態度で評価。	

【授業科目】 社会福祉援助技術論	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士の実践にとって必要な社会福祉援助技術の大意を理解する。 2. 社会福祉援助技術の方法および内容について理解する。 3. 他の専門職とのチームワークの大切さとチームメンバーとしての自覚を高める。 4. 居宅介護支援および施設介護サービス計画の意義および概要について理解する。 	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">授業時に指示する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p style="text-align: center;">授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士と社会福祉援助技術 2. 個別援助技術（ケースワーク）の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個別援助技術の意義・機能・原則・展開過程など 3. 集団援助技術（グループワーク）の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 集団援助技術の意義・機能・展開過程など 4. 地域援助技術（コミュニティワーク）の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域援助技術の意義・機能・展開過程など 5. 関連援助技術（ケアマネジメント、ネットワーク、チームワークなど）の理解 6. 居宅介護支援および施設介護サービス計画の理解 7. 社会福祉援助技術における具体的手段 <ol style="list-style-type: none"> (1) 面接の構造と技法 (2) 記録の書き方 (3) 事例研究の方法 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点と学期末レポートによる。</p>	

【授業科目】 社会福祉援助技術演習	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉援助技術の理論について演習で理解を深めるとともに、応用能力を向上させ介護福祉としての社会福祉援助技術を修得する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老人や障害者の事例をとりあげ、社会福祉援助技術について具体的に検討することにより、その実際の活用について理解する。 2. 事例に基づき、居宅サービス計画および施設サービス計画の実際を演習する。 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と学期末レポートによる。</p>	

【授業科目】 家政学実習Ⅰ（栄養・調理）	【担当者】 風見公子
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者（児）や高齢者の食事に関する援助の基本的な方法について実習によって学ばせる。 2. 施設実習などで経験した食事介助のあり方、食品衛生の管理の方法を実習と関連させながら理解させる。 	
<p>【テキスト】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教師作成のプリント ② 足立己幸 著 「主食 主菜 副菜料理成分表」 群羊社 	
<p>【参考書】</p> <p>参考書は授業の中で、適宜、紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な調理操作、及び調理器具の扱い方を日常の家庭料理の実習を通じて学ぶ。 2. 献立作成・栄養価計算 自分の食事記録及び、その診断によって望ましい食事構成のあり方を学ぶ。 また、実際に献立作成したもので調理実習も行う。 3. 障害者（児）・高齢者にとって望ましい食事を、主に食物形態の変化を中心に実習し学ぶ。 4. 障害者（児）・高齢者の食行動を理解する為の実習を行う。また、実際的な食事の援助方法を学ぶ。加えて、衛生管理を行う。 5. 嗜好調査の方法と分析方法を演習する。 	
<p>【評価方法】</p> <p>試験もしくは課題レポート及び出席状況</p>	

【授業科目】 家政学実習Ⅱ（被服・住居）	【担当者】 山本良子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>衣生活の管理に関する技術を実習を通して習得させ、かつ高齢者や障害者の家庭生活支援に必要な実践的な経営能力を養わせる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>家政学実習ノート 佐々井 啓編 誠信書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>家政学実習 大谷 陽子編 建帛社</p>	
授 業 計 画	
<p>1) 被服素材の特徴および繊維鑑別の実習 素材表示に示されている繊維の簡単な見分け方の実習</p> <p>2) 布地の性能に関する実習 布地の種類、構造の観察実習</p> <p>3) 被服管理実習 洗濯、漂白、しみ抜き、のり付け、仕上げ、保管その他</p> <p>4) 高齢者や障害者のための被服デザイン・構造、色彩、及び着脱の工夫等 体型・障害の例による使いやすい被服の検討を考える。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実習レポート</p>	

【授業科目】 家政学実習Ⅱ（被服・住居）	【担当者】 定行まり子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】 住居は、我々人間が生活を営む上で、最も基本的な場である。人間及び家族が拠り所としている住居は、安全であり、快適であることが望まれる。そこで、本授業では個人や家族、また特に、高齢者や子どもが安全で、快適に暮らすための住居や住生活の計画・管理についての実践力を養うことを目標としている。授業は、講義と演習及び実地見学などが計画されている</p>	
【テキスト】 後藤久 他「基礎シリーズ住居学入門」実教出版	
<p>【参考書】 随時プリントなどを配布。講義中に参考図書を紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p><講義内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活様式と住居 2. 健康的で快適な室内環境 3. 家族の生活と住居 4. 高齢期の生活と住居 <p><設計演習>・・・集中授業</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 住居の設計 6. バリアフリー設計 <p><見学実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 住宅都市整備公団試験場 	
<p>【評価方法】 出席・小テスト・レポート課題・設計課題</p>	

【授業科目】 医学一般Ⅲ	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 2年 後期	
【授業目標】 1. わが国の保健・医療・福祉の歴史と現状対策の理解をはかる。 2. 医療法制度の概要の理解。 3. 医療関係者とのスムーズな連携のために… 医療・福祉現場で必要とされ、理解していたほうが better な知識の習得。 4. 介護福祉士自身の健康増進・管理法の習得。	
【テキスト】 介護福祉士養成講座 10 医学一般 (中央法規)	
【参考書】	
授 業 計 画	
1. 1) 健康の概念とわが国の健康水準 2) 公衆衛生の動向 ①人口統計 ③医療関係者の現状 ⑤医療保障制度 ②疾病と受療状況 ④医療施設の現状 3) 保健医療対策の概要 ①老人保健対策 ③生活習慣病対策 ②精神保健対策 ④母子保健対策など 4) 健康増進施策 5) 健康増進と生活習慣病などの疾病予防法 —食生活と栄養・運動・喫煙・アルコール・ 休養とストレス— 2. 医事法制の概要 1) 医療法 2) 医師法 3) 保健婦助産婦看護婦法 3. 1) カルテ (医療情報提書) の読み方 2) “薬 (処方箋)” の中身の調べ方と重要な薬の副作用の理解 3) 主な検査データの読み方 (血算・生化学・尿) 4) 入所者の全身状態の把握の仕方 5) 入所者の緊急状態の把握の仕方と救急処置 4. 介護士自身の健康管理法 介護士が職務上注意すべき疾患とその予防法 1) 健康の原則 2) 健康増進と生活習慣病などの疾病予防法 3) 注意すべき疾患とその予防法 腰痛症 (ヘルニア・坐骨神経症・脊柱管狭窄症・すべり症など) 手足のしびれ	
【評価方法】 出席点と筆記試験	

【授業科目】 形態別介護技術Ⅱ (内部障害・肢体不自由・在宅介護)	【担当者】 新井幸恵
【開講期】 2年 前期	
【授業目標】 1 精神障害者、知的障害者等の暮らしや思いについて理解する 2 地域、施設等で暮らす障害者の多様な支援システム、援助技術について理解する 3 障害者支援に必要な周辺諸科学について理解を深める 4 多様な福祉ニーズを持つ人々の在宅生活支援のための社会制度や援助技術を理解する	
【テキスト】 形態別介護技術 中央法規出版	
【参考図書】 1 松浦幸子「不思議なレストラン」教育史料出版会 2 秋元波留夫編「精神障害者のリハビリテーションと福祉」中央法規 3 ゆずりはの会編「在宅介護手記集 手抜きでドンマイ」桐書房	
<p style="text-align: center;">授業計画</p> 1 精神障害者の介護 春休みの課題（精神障害者に関わる作業所、施設、保健所、当事者らを訊ねてその印象をまとめる）に基づき授業をすすめる こころを病むという体験を、事例などから当事者の立場で考えてみる 精神障害者の治療の歴史をたどり、今介護に課せられている生活支援の役割について考察を深める 2 知的障害者の介護 今までにあった障害者との出会いを振り返る 事例などで、障害者の地域や施設での暮らしを理解する 障害をもっても生き生きと暮らせる条件を整えるための、援助技術、援助システムを考える 3 在宅での介護 在宅介護の歴史、社会制度の発展、介護保険下での役割などを理解する 在宅介護に固有の知識、技術について理解する	
評価方法 レポート及びテストによる	

【授業科目】形態別介護技術Ⅲ（視覚障害）	【担当者】立花明彦
【開講期】2年 前期	
【授業目標】 視覚障害といっても、障害の程度（見え方）、障害の発生原因とその時期、今後の進行予測など個人によって様々である。いずれにしても、日常生活において受ける影響は大きくその克服は容易ではない。その障害を克服して社会的に自立するために必要な援助について学習する。	
【テキスト】 視覚障害者の介護技術、点訳のしおり	
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 【参考書】	
授 業 計 画	
以下の点について学習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害に関連する医学的知識として、目の構造と機能、視覚障害の原因となる疾病、残存感覚の働きと活用などの基礎的な知識。 ・視覚障害児者の教育、職業、日常生活の現状。 ・視覚障害による歩行・移動の障害に対する介護技術。 ・パソコンを始めとする情報機器の急速な発達による情報障害の補償状況。 ・情報機器活用における援助と技術。 ・点字、音訳（朗読）の基礎的な知識技能。 	
【評価方法】 平常点、筆記試験	

【担当科目】介護実習 Ⅲ	【担当者】 関谷榮子・中山幸代・西方規恵・新井幸恵・落海文子他
【開講期】	2 年 前 期
【授業 目標】 実習第Ⅲ期（総合実習） (1) 受け持ち利用者の介護計画を立案、実施、評価し利用者理解を深める。 (2) 夜勤などの変速勤務を体験し利用者の24時間の生活を理解する。 (3) 介護福祉士としての自己覚知をもち、自己の介護観を述べるができる。 (4) 第Ⅲ期終了後に受け持ち利用者の介護過程をまとめレポートにする。	
【テキスト】 実習要項他	
【参考書】	
実 習 計 画	
1. 介護計画の立案、実施、評価の方法を習得する。 1) 受け持ち利用者の全体像を把握し問題を明確にしたうえで介護計画を作成する。 2) 介護計画の内容については実習指導者の助言を得た後に実践する。 3) 日々の実践を所定の記録用紙に記録する。 2. 夜勤実習 利用者の24時間の生活援助を経験する。 3. 介護福祉士としての資質、適性を身につける 1) 実習を通して介護者としてのあり方、援助の内容を分析し介護福祉士としての自己覚知を深める。 2) 自己の介護観を明確にする。 実習期間 平成13年9月3日から29日までの20日間 実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。	
【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。	

【担当科目】 実習指導Ⅱ	【担当者】 関谷榮子・中山幸代・西方規恵・新井幸恵・落海文子他
【開講期】 2 年 前 期	
【授業 目標】 (1) 体験学習を通じて知識・技術、態度を具体的に实际的に応用する能力を身につける。 (2) 介護福祉専門職としての自己覚知をもち、専門職に求められる資質技能及び自己に求められる課題把握など、総合能力を修得する。 (3) 個別介護計画を立てて実施し評価する方法を学ぶ。	
【テキスト】 実習要項他	
【参考書】	
授 業 計 画	
1. 介護実習Ⅱの反省・評価後を介護実習Ⅲに向けての準備 実習第Ⅱ期のスーパービジョン及び第Ⅲ期実習に向けての準備 1) 第Ⅱ期実習後のスーパービジョン、個別面接指導 2) 第Ⅲ期実習配属施設の決定 3) 受け持ち利用者の情報収集、アセスメント、問題発見と分析 4) 介護計画の立案、実施、評価についての演習 5) 受けもち利用者のケーススタディをまとめるための学習準備。 2. 在宅介護実習の準備 在宅介護実習オリエンテーション 在宅介護記録の方法、自己学習目標 事前オリエンテーション 実習 1) 在宅実習期間平成13年5月から7月までの間の3日間（予定） 2) 施設介護実習Ⅲ 実習期間 平成13年9月3日から29日までのうち20日間 実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。	
【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。	

【担当科目】 実習指導Ⅲ	【担当者】 関谷 榮子・中山 幸代・西方 規恵・新井 幸恵・落海 文子他
【 開講期 】 2 年 後 期	
<p>【授業 目標】</p> <p>(1) 体験学習を通じて知識・技術、態度を具体的に实际的に応用する能力を身につける。</p> <p>(2) 介護福祉専門職としての自己覚知をもち、専門職に求められる資質技能及び自己に求められる課題把握など、総合能力を修得する。</p> <p>(3) 個別介護計画により得られたものをもとにケーススタディを行う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">実習要項他</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. 介護実習Ⅲの反省・評価を行う。</p> <p style="padding-left: 2em;">実習第Ⅲ期のスーパービジョンを行う。</p> <p style="padding-left: 2em;">1) 第Ⅲ期実習後のスーパービジョン、個別面接指導</p> <p style="padding-left: 2em;">2) 受け持ち利用者の情報収集、アセスメント、介護計画の実施後の評価を行う。</p> <p style="padding-left: 2em;">3) 介護計画を振り返りケーススタディ報告書にまとめる</p> <p>2. 自己の介護観を育成する。</p>	
<p>【評価方法】 出席点、 ケーススタディ レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。</p>	

【授業科目】 卒業研究ゼミナール	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>I: 福祉施設や医療現場で使用される医療機器の理解 II: 介護実習の症例検討: 医学的視点を加えて III: 医療と福祉の接点に関連する本や雑誌の輪読と新聞記事などから up-to-date な記事を選び議論する</p>	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>I: 福祉施設に入所している高齢者や在宅高齢者の多くは、介護面からのケアと同時に医療的処置を必要としている場合が多い。このような高齢者に、質の高い医療・福祉を提供するためには医療スタッフ以外の介護職も基本的な医療機器の知識をもつことは、緊急時などに医療スタッフと共に協力して高齢者に対処することができるし、介護福祉士の自信にも繋がる。また、将来これらの知識を持つ事を公に要求される時期がくることも予想される。よって、その機器がどのような機器でその機器を使用する目的(どういう状況の時に使用するか)は何か、などの理解をめざす。学生同志でお互いに測定し合う・それらを装着して体験を試みる。</p> <p>具体的には、 尿道カテーテル(バルーン) 点滴セット・IVHとは? ストマ・酸素マスク・酸素ボンベの見方や管理の仕方・痰吸引機の取り扱い方 血圧計・心電図・体温計の原理や使用方法 など</p> <p>II: 介護実習 III 期で担当した症例を一人ずつ報告してもらい、質疑応答しながら医学的視点から再検討を加え、より良い介護をめざす。</p> <p>III: 本や雑誌・新聞などから up-to-date な医療と福祉の接点に関連する話題を選び分担を決めて報告し合い、担当者の内容説明を中心にして、皆で discussion し理解を深める。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点・授業姿勢・レポートなど</p>	

【授業科目】 卒業研究ゼミナール	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉の援助技術について理解すると共に、社会福祉の専門性について考察する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>人々が実際に生活している地域社会において、どのような福祉問題がおきているのか、また、それらに対して誰がどのような立場で、どのような援助技術をもって援助をおこなっているかについて、文献研究や事例研究などから具体的に学んでいく。そして、社会福祉援助の実践をになう社会福祉専門職としての力量を高めていきたい。</p> <p>また、その中で各自の問題意識をより明確にするとともに、ゼミ生どうしのディスカッションをとおして、お互いに学び合っていく関係をつくっていきたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点により評価する。</p>	

【担当科目】 卒業研究 ゼミナール	【担当者】 関谷 榮子
【開講期】 2 年 前 ・ 後 期	
【授業 目標】 1. 地域の障害者や高齢者の生活実態を学び、介護援助の課題を考える。 2. 学生自身の問題意識を尊重し体験学習を通じて実践的に学ぶ能力を養う。	
【テキスト】	
【参考書】 ゼミナールの中で紹介する。各自で見つけるのもよい	
授 業 計 画	
<前期> 学内の活動 参考書やビデオなどから各自で学び抄読会を行う。 地域活動 在宅の障害者や高齢者の家庭を訪問し直接当事者の方々から話を聞く。 <後期> 地域活動を継続し、レポートにまとめる。 障害者や痴呆性老人の在宅ケアのあり方をまとめる。 その他 学生同士のボランティア活動に協力したり、ゼミ運営は学生自身の自主活動とする。	
【評価方法】 出席点、 レポート・その他により評価する。	

【授業科目】 卒業研究ゼミナール	【担当者】 中山幸代
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老人神話と呼ばれる高齢者像の実態を文献を通して検証し、高齢者の実態を正しく把握する。 2 介護実習の経験を振り返り、援助者としての自分を見つめることができる。 	
<p>【テキスト】 高橋恵子・波多野誼余夫『生涯発達の心理学』岩波新書 その他</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 前期 文献抄読 (毎回指定された文献を読み、要約を行う。その要約をもとにグループ討議を行い理解を深める。) 2 夏休みの合宿 他大学で社会教育を専攻する学生や看護学生との合同合宿を予定している。 福祉施設を見学後、異なる専門領域で学ぶ同じ世代の学生が、何を感じ考えたかを討議を行う。学内のゼミ生同士とは異なるものの見方や、考え方に触れる機会を通して介護や自分を見つめ直す。 3 後期 介護実習の経験を振り返り、援助者としての自分を見つめる。 介護を通して感じた自分の思いをグループのなかで語り合うことで、援助者としての自分がどんな価値観を持っているのか、どんな援助傾向があるかを見つめなおす。 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートと平常点（グループ討議への参加度など）により評価する。</p>	

[授業科目] 卒業研究ゼミナール	[担当者] 西 方 規 恵
[開講期] 2年 前期・後期	
[授業目標] 障害者・高齢者に対する介護を事例を通して考える。	
[テキスト・参考文献] ゼミナールのなかで紹介する。	
授 業 計 画	
<p>介護は、身体的・精神的又は社会的に何かの問題を持っている為に生活に支障をきたしている方々に、何かの援助をすることで、日常生活が継続できるよう働きかけていくことであり、その働きかけ方は本人の自立を支援する方向でなされるべきであるとされている。</p> <p>ところで高齢者の中には、痴呆症状がある方がおられたり、障害者の中には知的障害の方や精神障害の方々がおられる。このような方々にとって「自立支援」を含めた介護はどのようになされるべきなのだろうか。</p> <p>具体的には事例を通して学んでいきたいと考えている。また学ぶに当たって、施設見学なども考えている。</p>	
[評価方法] ゼミナールへの参加度（出席・レポート、発表姿勢など）を含めて平常点で評価する。	

【授業科目】 卒業研究ゼミナール	【担当者】 村田保太郎
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>「豊かに共に生き合うために」をテーマとして、特に高齢者との対人関係について実習中の記録及び参考文献、記録、手記などを通して追求する</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>必要に応じて適宜示す</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1 高齢者の生活や実態等の記述・記録を通して、高齢者の生き方や考え方を知る</p> <p>2 実習等の経験の中から、対人関係における自分と他者との関係性についてレポートを作成し検討する</p> <p>3 各自が、抱えている悩みや問題等を話しあい〃自分探し〃を体験する</p> <p>4 よりよい対人関係を保つにはどうすればよいかについて考える</p> <p>5 〃共生〃の具体的な在り方を探る</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>1 ゼミ研究に対する意欲・積極性及び協力的態度</p> <p>2 レポートの内容・まとめ方</p>	

【授業科目】 地域福祉論	【担当者】 鍾 家新
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>本講義は現代の社会福祉における重要な意義と役割をもつ地域福祉について、必要基準と考えられる知識体系を、理論と実践の両側面にわたって包括的にとらえる。①地域福祉の理念と内容、②地域福祉のサービス体系、③地域福祉の推進方法、④地域福祉の現状、⑤地域福祉の相談援助活動、⑥海外における地域福祉の動向、についての理解を深めることを目的とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編『地域福祉論』中央法規、2001年。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>講義の中で必要に応じて参考文献を紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">授業ではつぎの諸テーマを取り上げる。</p> <p>I 現代社会におけるコミュニティと地域福祉</p> <p>II 地域福祉の理念とその展開 ①地域福祉の理念の発達 ②地域福祉の概念と範囲</p> <p>III 地域福祉のサービス体系 ①地域福祉のサービスのネットワーク ②地域福祉の構成</p> <p>IV 地域福祉の推進方法 ①地域福祉ニーズの把握 ②地域福祉計画と財源 ③福祉教育</p> <p>V 地域福祉の現状 ①地域福祉サービスの供給主体 ②地域福祉のマンパワー</p> <p>VI 地域福祉の相談援助活動 ①地域福祉の相談援助活動の意義と特質 ②地域福祉の相談援助の事例研究</p> <p>VII 海外における地域福祉の動向</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試験と出席状況。</p>	

【授業科目】 ホスピスケア概論	【担当者】 株本千鶴
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>ホスピスとは何なのか、誰が何のためにやっているのか、なぜ必要なのか、素朴な疑問を解くことから入っていきたい。講義では、ホスピスの歴史や現状、ホスピス対象者の特性、日本および諸外国のホスピスの特徴などをまなびながら、〈よりよい死に方〉とはどういうものか、それを援助するのにどんな方法があり、またその方法には解決すべきどんな問題点が残っているのか、などを考えたい。どうじに、われわれが他者の死にかかわるということの意味についても理解を深めたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>柏木哲夫『NHK人間大学 死を看取る医学』NHK出版、1997年</p>	
<p>【参考書】</p> <p>谷壮吉・錦織葆著『最新ホスピスQ&A100』東京書籍、1999年 佐々木隆志『日本における終末ケアの探究』中央法規、1997年</p>	
授 業 計 画	
<p>1. ホスピスとホスピス対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代医療と死に方の変化 ・ホスピスの歴史と発展 ・ホスピスの理念と定義 ・ホスピスの形態と内容 ・ホスピス対象者の心理過程 <p>2. 〈よりよい死に方〉とその援助～比較文化的な視点から～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〈よりよい死に方〉と死の文化 ・〈よりよい死に方〉を追求する人びとと活動 ・多様な援助のしかた ・社会福祉とホスピス <p>* ビデオやプリント資料をもちいて事例を紹介する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点とレポートから総合的に評価</p>	

[授業科目名]	視聴覚メディア活用法	「担当者」八木 絃一郎
[開講期]	2年後期	
[授業目標]	<p>パソコンをマルチに使いこなす「技術」ではなく「知恵」を磨くことを目指す。介護現場の利用者、及び、それに従事する人たちの『表現文化性』を豊かにするためのアイデアとテクニックの習得をめざす。</p>	
[テキスト・参考書]	なし	
授 業 計 画		
<p>この演習では、介護現場の「表現文化性」を豊かにするための知恵を教授する。 以下に提示した項目のいくつかを扱うことになる。</p>		
<p>1、基本テクニックとしてのパワーポイントの習得 パソコン使用技術はあることを前提にして授業をする。 共通テクニックとしては、パワーポイントだけ。あとはデジタルカメラ、スキャナ、イラスト、写真、などビジュアルに描くテクニックなどを全てマルチに幅広く活用していく。</p> <p>2、表現文化性豊かなコミュニケーションツールの製作 カード作成(クリスマスカード・年賀状) 誕生カード(実習先の利用者を想定した誕生カードの作成方法) カレンダー作成</p> <p>3、デイケアのアートレクリエーション・ツールに使えるパソコンテクニック</p> <p>4、実習先の施設紹介ちらし・パンフレット作成 PR用のレイアウト・デザインに必要な基本知識とテクニック</p> <p>5、実習施設における各種行事の案内状作成 1年間を通した四季折々の季節行事・運動会・生活展・お祭りなどの案内状作成に必要な基本テクニックとマナー等の習得</p>		
[評価方法]	平常点	

学籍番号・

氏名・

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

教務課 042(346)5619